

2003年度

フランス語学科シラバス

獨協大学

【 シラバスの見方 】

「シラバス」は、科目の担当教員が、学期ごとに授業計画、目的、講義内容および評価方法を学生に周知することにより、受講の指針および授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。シラバスを良く読み、計画的な履修登録をしてください。

フランス語学科のカリキュラムは入学年度により2種類に分かれています。「2002年度以前入学者用」と「2003年度以降入学者用」です。各自の入学年度に従い、目次を確認してください。

シラバスの見方は次のとおりです

適用カリキュラム(入学年度による)

02年以前カリ	フランス文学概論	担当者	獨協 太郎	} 通年科目の科目名, 担当者
03年カリ	フランス文学概論a	担当者	獨協 太郎	
講義目的および講義内容		授業計画	1 授業のポイント	} 春学期(前期)の欄
			2 以下同じ	
			3	
			.	
			.	
			.	
			.	
			.	
			.	
			11	
12				
評価方法				
テキスト参考文献				
03年カリ	フランス文学概論b	担当者	獨協 太郎	} 秋学期(後期)科目の科目名, 担当者
講義目的および講義内容		授業計画	1 授業のポイント 以下同じ	
			2	
			3	
			.	
			.	
			.	
			.	
			.	
			.	
			11	
12				
評価方法				
テキスト参考				

目次

※ []内の科目は2003年度入学者用です。

— 学科基礎科目 —

《フランス語部門》

フランス語 I (文法)	[フランス語 I a・b(文法)]	各担当教員	1
フランス語 I (総合)	[フランス語 I a・b(総合)]	各担当教員	2
フランス語 I (会話)	[フランス語 I a・b(会話)]	各担当教員	3
フランス語 I (LL)	[フランス語 I a・b(LL)]	各担当教員	4
フランス語 II (文法)		各担当教員	5
フランス語 II (講読)		各担当教員	6
フランス語 II (総合)		各担当教員	7
フランス語 II (会話)		各担当教員	8
フランス語 II (LL)		各担当教員	9

— 学科共通科目 —

《フランス語部門》

総合フランス語		各担当教員	10
フランス語文章表現法		B. レウルス	11
〃		C. ヴァンドルディ	12
〃		M. ミズバヤシ	13
〃		M. ミュノーズ	14
〃		Ph. ヴァネ	15
和文仏訳		A. ドホス	16
〃		小石 悟	17
フランス語会話		C. ヴァンドルディ	18
〃		C. ヴァリエヌ	19
〃		F. ルーセル	20
〃		H. ドリエップ	21
〃		L. フォンテーヌ	22
〃		M. ミズバヤシ	23
〃		R. サクマ	24
〃		S. ジュンタ	25
時事フランス語		中村 公子	26
〃		横地 卓哉	27
商業フランス語		C. パジェス	28
〃		大井 正博	29

— 学科専門科目 —

《「フランス語学・文学」部門》

フランス語学概論	古川直世	30	
フランス文学概論	[フランス文学概論a・b]	保苺瑞穂	31
フランス語史	山田秀男	32	
フランス文学史	江花輝昭	33	
フランス語学各論	小石悟	34	
フランス文学各論	根本祐徳	35	
フランス語学講読	小石悟	36	
〃	中村公子	37	
〃	山田秀男	38	
フランス文学講読	M. ミズバヤシ	39	
〃	佐原隆雄	40	
〃	根本祐徳	41	
〃	平井康和	42	
〃	保苺瑞穂	43	
〃	横地卓也	44	

《「フランス文化・社会」部門》

フランス文化・社会概論	[フランス文化・社会概論a・b]	(春学期) 根本祐徳 (秋学期) 横地卓哉	45
フランス事情	(春学期完結) 鈴木隆	46
〃	(秋学期完結) 藤田朋久	47
フランスの地誌	鈴木隆	48
フランスの歴史	藤田朋久	49
フランスの思想	若森栄樹	50
フランスの美術	前川久美子	51
フランスの音楽	松橋麻利	52
フランスの演劇	井村順一	53
フランスの政治	井上スズ	54
フランスの経済	千代浦昌道	55
フランス文化・社会各論	井上たか子	56
フランス文化・社会講読	Ph. ヴァネ	57
〃	井上スズ	58
〃	井上たか子	59
〃	江花輝昭	60
〃	鈴木隆	61
〃	藤田朋久	62
〃	前川久美子	63

02 年以前カリ	フランス語 I (文法)	担当者	各担当教員
----------	--------------	-----	-------

03 年カリ	フランス語 I a (文法)	担当者	各担当教員
--------	----------------	-----	-------

講義目的および講義概要	この講座は週 2 回の授業により、1 年間でフランス語文法の概略を学ぶことを目的としています。	授業計画	1
	どのような教科書を使うのか、どのように授業を進めるのかといったことに関しては担当の先生より説明があるので、最初の授業には必ず出席してください。		2
			3
評価方法	担当の先生より指示があります。		4
			5
テキスト参考文献	担当の先生により指示されます。		6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

03 年カリ	フランス語 I b (文法)	担当者	各担当教員
--------	----------------	-----	-------

講義目的および講義概要	上記講座の続きです。	授業計画	1
			2
			3
評価方法	担当の先生より指示があります		4
			5
テキスト参考文献	担当の先生により指示されます。		6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

02 年以前カリ	フランス語 I (総合)	担当者	各担当教員
----------	--------------	-----	-------

03 年カリ	フランス語 I a (総合)	担当者	各担当教員
--------	----------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>この講座はフランス語の実力を総合的に養うための講座で、週 2 回あり、LL, 会話と同じ教科書を用います。教科書は champion I です。(既習クラスは Panorama I)</p> <p>この講座では特に文法、語彙の習得に中心を置きます。具体的には各課の最初にある dialogue を解説し、関連した文法事項を学び、練習問題をすることで知識を確実に身につけ、そしてフランス語を書く能力を少しずつつけていきます。</p> <p>Champion I では unité0 から unité5 まで、Panorama I では leçon4 から leçon9 まで進みます。</p>	授業計画	1
			2
			3
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
評価方法	担当の先生により指示されます。		
テキスト参考文献	未習クラスは Champion I (livre de l'élève と cahier d'exercices) 既習クラスは Panorama I (livre de l'élève と cahier d'exercices)		

03 年カリ	フランス語 I b (総合)	担当者	各担当教員
--------	----------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>前期の続き</p> <p>Champion I では unité6 から unité10 まで、Panorama I では leçon10 から leçon15 まで進みます。</p>	授業計画	1
			2
			3
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
評価方法	担当の先生により指示されます。		
テキスト参考文献	前期と同じ		

02 年以前カリ	フランス語 I (会話)	担当者	各担当教員
----------	--------------	-----	-------

03 年カリ	フランス語 I a (会話)	担当者	各担当教員
--------	----------------	-----	-------

講義目的および講義概要	フランス人あるいはネイティブによる会話の講座です。総合フランス語および LL と平行して、フランス語会話の力をつけることを目的としています。進度は総合フランス語、LL と同じです。	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	担当の先生から指示があります。		
テキスト参考文献	総合フランス語と同じ		

03 年カリ	フランス語 I b (会話)	担当者	各担当教員
--------	----------------	-----	-------

講義目的および講義概要	上記講座の続きです。 進度に関しては総合フランス語参照。	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	担当の先生より指示があります。		
テキスト参考文献	総合フランス語と同じ		

02 年以前カリ	フランス語 I (LL)	担当者	各担当教員
----------	--------------	-----	-------

03 年カリ	フランス語 I a (LL)	担当者	各担当教員
--------	----------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>この講座では特に発音、つづり字、聞き取りに力を入れます。教科書は総合フランス語、会話と同じです。</p> <p>授業の進め方については担当の先生の説明がありますが、大体、総合フランス語や会話と同じペースで進んでいきます。</p> <p>進度に関しては総合フランス語シラバスを参照のこと。</p>	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	担当の先生から指示があります。		
テキスト参考文献	総合フランス語と同じ		

03 年カリ	フランス語 I b (LL)	担当者	各担当教員
--------	----------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>上記講座の続きです。</p> <p>進度に関しては総合フランス語シラバスを参照のこと。</p>	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	担当の先生から指示があります。		
テキスト参考文献	総合フランス語と同じ		

02年以前カリ	フランス語Ⅱ（文法）	担当者	各担当教員
---------	------------	-----	-------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	この講座は初級文法を終えた学生に、文法上の難しい事柄について踏み込んだ説明をし、より洗練された知識を身につけてもらうことを目的とします。いわゆる中級文法です。 教科書、授業の進め方および進度に関しては担当の先生より説明があります。	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

評価方法	担当の先生より指示があります。
------	-----------------

テキスト参考文献	担当の先生により指示されます。
----------	-----------------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	前期と同じ	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

評価方法	前期と同じ
------	-------

テキスト参考文献	前期と同じ
----------	-------

02年以前カリ	フランス語Ⅱ（講読）	担当者	各担当教員
---------	------------	-----	-------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	この授業はフランス語で書かれたテキストを読む力を養うことを目的としています。 教材および授業の進め方と進度に関しては先生から直接指示があります。	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	担当の各先生により指示されます。		
テキスト参考文献	担当の各先生により指示されます。		

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	前期と同じ。	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	前期と同じ		
テキスト参考文献	前期と同じ		

02年以前カリ	フランス語Ⅱ（総合）	担当者	各担当教員
---------	------------	-----	-------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>この講座はフランス語の力を総合的に伸ばすことを目的としています。1組とそれ以外の組、つまり2, 3, 4組は違う教材を用います。1組は Panorama2 を、その他の組は champion 1,2 を用います。</p> <p>授業は文法を身につけること、語彙をマスターすること、そしてフランス語を書く力をつけることに重点をおきます。</p> <p>進捗については、champion の場合は livre1 の unité11 から unité15 まで、panorama2 の場合は unité2 の半ばまで進みます。</p>	授業計画	1
			2
			3
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
評価方法	担当の各先生が指示します。		
テキスト参考文献	Champion1,2, panorama2		

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>この講座は前期の続きで、フランス語の力を総合的に伸ばすことを目的としています。1組とそれ以外の組、つまり2, 3, 4組は違う教材を用います。1組は Panorama2 を、その他の組は champion 1,2 を用います。</p> <p>授業は文法を身につけること、語彙をマスターすること、そしてフランス語を書く力をつけることに重点をおきます。</p> <p>進捗については champion の場合は livre1 の unité16 と livre2 の unité1 から unité4 まで進みます。</p>	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	前期と同じ		
テキスト参考文献	前期と同じ		

02年以前カリ	フランス語Ⅱ（会話）	担当者	各担当教員
---------	------------	-----	-------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>この講座は総合フランス語、LLと連携した講座で、同じ教科書を用いて授業を行います。先生はフランス人あるいはネイティブ・スピーカーで、特に会話と決まった言い回し（expressions）を中心とした授業になります。</p> <p>教科書は既習クラス（2年1組）では panorama2、未習クラス（2年2、3、4組）では champion1,2 です。</p> <p>進み方に関しては総合フランス語と同じです。</p>	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
評価方法	担当の先生により指示されます。		11
テキスト 参考 文献	Champion1,2 panorama2		12

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	前期と同じ	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
評価方法	前期と同じ		11
テキスト 参考 文献	前期と同じ		12

02 年以前カリ	フランス語Ⅱ (LL)	担当者	各担当教員
----------	-------------	-----	-------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>この授業ではLL教室を用いて、主に発音、聞き取り、compréhension globale などに力を入れます。教科書は総合フランス語や会話と同じです。</p> <p>授業の進め方については担当の先生の説明がありますが、進度は総合フランス語、会話と同じです。</p>	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	担当の各先生より指示されます。		
テキスト参考文献	Champion1,2 panorama2		

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>この授業ではLL教室を用いて、主に発音、聞き取り、compréhension globale などに力を入れます。教科書は総合フランス語や会話と同じです。</p> <p>授業の進め方については担当の先生の説明がありますが、進度は総合フランス語、会話と同じです。</p>	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	担当の各先生より指示されます。		
テキスト参考文献	Champion1,2 panorama2		

02年以前カリ	総合フランス語	担当者	各担当教員
---------	---------	-----	-------

		担当者	
--	--	-----	--

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	<p>Le but de ce cours est d'approfondir la connaissance de la langue française aussi bien sur le plan grammatical que lexical. Il prend la suite des cours de Sogo des deux premières années mais il n'a lieu qu'une fois par semaine avec un enseignant francophone. Vous devez donc travailler personnellement à la maison et préparer à l'avance. Les cassettes des leçons seront distribuées au début de l'année. Le groupe 3-1 utilise <i>Panorama II</i> à partir de la leçon 7 ; les groupes 2, 3, 4 et 5 : <i>Champion II</i> à partir de l'unité 5.</p> <p>On insistera surtout sur la compréhension à l'écrit et à l'oral et sur l'expression écrite.</p> <p><u>Attention au numéro de votre groupe</u>: il est différent de celui de l'année dernière.</p>	授業計画	1 <i>Champion</i> unité 5 <i>Panorama</i> leçon 7
			2
			3
			4 <i>Champion</i> unité 6
			5 <i>Panorama</i> leçon 8
			6
			7 <i>Champion</i> unité 7
			8
			9 <i>Panorama</i> leçon 9
			10 <i>Champion</i> unité 8
			11
			12
評価方法	La méthode d'évaluation des connaissances sera expliquée par chaque enseignant.		
テキスト参考文献	<i>Champion II</i> + cahier d'exercices et cassette audio. <i>Panorama II</i> + cahier d'exercices et cassette audio.		
			Certaines classes peuvent n'arriver qu'à U7 (<i>Champion</i>)

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要		授業計画	1 <i>Champion</i> unité 9 <i>Panorama</i> leçon 10
			2
			3
			4 <i>Champion</i> unité 10
			5 <i>Panorama</i> leçon 11
			6
			7 <i>Champion</i> unité 11
			8
			9 <i>Panorama</i> leçon 12
			10 <i>Champion</i> unité 12
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			
			Certaines classes peuvent n'arriver qu'à U10 ou 11 (<i>Champion</i>)

02 年以前カリ	フランス語文章表現法	担当者	B. レウルス
----------	------------	-----	---------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	授業は、フランス語の広告、ポスター、チラシ、テレビの C.M.、雑誌の記事などを材料に進めていく。この授業では documents authentiques を使って、読解力・書く・カコミュニケーション能力を伸ばしていく。 Dans ce cours nous étudierons une série de documents authentiques (presse & médias, publicités, articles de magazines, etc.). La compréhension est progressive : observation générale du document, exercices de grammaire et de lexique puis exercices d'expression.	授 業 計 画	1
			2
			<ol style="list-style-type: none"> 1. 恋愛の表現 : expression des émotions. 2. 地下鉄でパリ発見 ! : rencontre en R.E.R. 3. 有名で、誰でも使っている : Bic、仏企業 4. カマンベルから見たフランスグルメ : le Camembert. 5. フランス映画の復活 : Festival de Cannes. 6. ショコラ製造業者 : Gérard MULOT, chocolatier à Paris. 7. ヨーロッパの中のフランス : notre monnaie, l'Euro. 8. インターネット & cyberbook : romans en-ligne 9. Agnès b. « Si j'étais... »
評価方法	授業へ積極的な参加・試験は学期末に行ないます。		9
テキスト参考文献	「Je lis, tu lis...」 「資料で読み解くフランス語」 第三書房 ISBN 4-8086.2105-3		10
			11
			12

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要		授 業 計 画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
評価方法			11
テキスト参考文献			12

02 年以前カリ	フランス語文章表現法	担当者	C. ヴァンドルディ
----------	------------	-----	------------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>Exprimez vos idées en Français</p> <p>Pendant ce cours vous apprendrez à exprimer vos idées à l'écrit sur un thème donné. A l'aide de la liste de vocabulaire qui vous sera à chaque fois fournie, vous réviserez, presque sans vous en rendre compte, les structures grammaticales déjà ou nouvellement acquises et les utiliserez dans des contextes variés.</p>	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト 参考 文献			

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト 参考 文献			

02年以前カリ	フランス語文章表現法	担当者	M. ミズバヤシ
---------	------------	-----	----------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>Objectif: Commencer à écrire en français de petits textes portant sur des sujets divers.</p> <p>Contenu : Ce cours s'adresse tout particulièrement aux étudiants qui souhaitent revoir les points grammaticaux de base. Tout au long de l'année, je proposerai aux étudiants des exercices diversifiés qui, en fin de parcours, leur permettront de rédiger avec un certain plaisir de petits textes en français. Le principe consistera à partir du plus simple pour aller vers des choses un peu plus compliquées. Ainsi nous partirons de la rédaction de phrases courtes tournant autour d'un point grammatical précis pour arriver à la production de petits textes traitant de sujets variés.</p>	授業計画	1. Exercices d'écriture 1
			2. Exercices d'écriture 1
			3. Exercices d'écriture 1
			4. Devoir à remettre
			5. Exercices d'écriture 2
			6. Exercices d'écriture 2
			7. Exercices d'écriture 2
			8. Devoir à remettre
			9. Exercices d'écriture 3
			10. Exercices d'écriture 3
評価方法	Contrôle continu. Un test à la fin des premier et deuxième semestres. Participation régulière aux cours souhaitée.		11. Synthèse
テキスト 参考 文献	Photocopies		12. Test

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	Le cours se fera avec les mêmes objectifs qu'au premier semestre.	授業計画	1. Exercices d'écriture 4
			2. Exercices d'écriture 4
			3. Exercices d'écriture 4
			4. Devoir à remettre
			5. Exercices d'écriture 5
			6. Exercices d'écriture 5
			7. Exercices d'écriture 5
			8. Devoir à remettre
			9. Exercices d'écriture 6
			10. Exercices d'écriture 6
評価方法	Contrôle continu. Un test à la fin des premier et deuxième semestres. Participation régulière aux cours souhaitée.		11. Synthèse
テキスト 参考 文献	Photocopies		12. Test

02年以前カリ	フランス語文章表現法	担当者	M. ミュノーズ
---------	------------	-----	----------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>Dans ce cours, nous choisirons ensemble des thèmes de conversation auxquels vous intéressez.</p> <p>Chaque séance sera l'occasion de découvrir, de réviser ou d'approfondir votre vocabulaire et quelques points de grammaire...</p> <p>Les conversations se feront en petits groupes.</p>	授業計画	1	Selon le thème choisi
			2	par les étudiants
			3	u
			4	u
			5	-u
			6	u
			7	u
			8	u
			9	u
			10	u
			11	u
			12	u
評価方法	Un examen oral			
テキスト参考文献				

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p><u>idem</u></p>	授業計画	1	u
			2	u
			3	u
			4	u
			5	u
			6	u
			7	u
			8	u
			9	u
			10	u
			11	u
			12	u
評価方法	un examen oral			
テキスト参考文献				

02 年以前カリ	フランス語文章表現法	担当者	P h. ヴァネ
----------	------------	-----	----------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>On n'écrit pas comme on parle. Pour que le lecteur vous comprenne bien, pour qu'il soit convaincu que vos opinions sont justes ou simplement pour qu'il continue à vous lire, il faut essayer d'écrire clairement et logiquement en faisant appel à sa raison et à son imagination.</p> <p>En classe, exercices sur les articulations et les expressions de la cause, de la conséquence, du but, de l'opposition et de l'hypothèse. Travail sur le plan. Comment écrire une introduction, une conclusion, un paragraphe.</p> <p>Une fois par semestre, chaque étudiant rédige une composition dont le sujet est libre. Le devoir est rendu 3 fois. Au cours des deux premières fois, j'indique les endroits à modifier. Après la troisième rédaction, je propose une correction possible.</p> <p>Ce cours s'adresse également aux étudiants de maîtrise.</p>	授業計画	1 Le 1 ^{er} semestre consiste en l'étude des articulations logiques.
			2
			3
			4
			5 Remise du devoir (1 ^{ère} fois).
			6
			7
			8 Remise du devoir (2 ^e fois)
			9
			10
			11 Remise du devoir (3 ^e fois)
			12
評価方法	Le grand devoir semestriel est noté.		
参考文献	<i>Grammaire du français (Cours de civilisation française de la Sorbonne).</i>		

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要		授業計画	1 Le 2 ^e semestre consiste en l'étude de la structure logique des textes (plan).
			2
			3
			4
			5 Remise du devoir (1 ^{ère} fois).
			6
			7
			8 Remise du devoir (2 ^e fois).
			9
			10
			11 Remise du devoir (3 ^e fois).
			12
評価方法			
参考文献	<i>Rédiger pour convaincre, Laurent JP, Duculot</i>		

02年以前カリ	和文仏訳	担当者	A. ドホス
---------	------	-----	--------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>L'objectif de ce cours est d'apprendre à établir une traduction « correcte » en français à partir d'un texte en japonais. En effet, dans le cas de deux langues aussi différentes, on ne peut pas se contenter de traduire « mot à mot », il faut plutôt assimiler le sens du texte japonais et le restituer dans une forme équivalente en français.</p> <p>Le cours sera centré sur deux points principaux.</p> <p>1.comparaison de deux documents (par exemple un article de journal) traitant d'un même sujet, l'un en japonais et l'autre en français. Recherche de vocabulaire et étude comparative de la structure des textes. Ensuite, en exercice pratique, traduction en classe d'un court document en japonais reprenant le même vocabulaire et de structure semblable que ceux étudiés.</p> <p>2.Etude plus « théorique » de plusieurs points difficiles dans le domaine de la traduction (utilisation correcte des dictionnaires, différences de formulations de la phrase dans les deux langues, etc.)</p> <p>Bien évidemment, certains problèmes plus grammaticaux (principalement les prépositions et les articles) seront également abordés.</p> <p>L'examen de fin de semestre consistera en une traduction d'un texte en rapport avec un des documents vus pendant le cours.</p> <p>Les étudiants doivent venir à chaque cours avec un BON dictionnaire français/japonais ET japonais/ français.</p>	授 業 計 画	1	<p>Le déroulement pratique du cours ainsi que les thèmes abordés seront fonction du nombre des étudiants, de leur niveau général et même, pour ce qui est des thèmes, éventuellement de leurs centres d'intérêt.</p> <p>Ce point sera précisé au début de l'année.</p>
			2	
			3	
			4	
			5	
			6	
			7	
			8	
			9	
			10	
			11	
			12	
評価方法	Participation au cours – traductions en classe – examen			
テキスト参考文献	Photocopies			

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要		授 業 計 画	1	
			2	
			3	
			4	
			5	
			6	
			7	
			8	
			9	
			10	
			11	
			12	
評価方法				
テキスト参考文献				

02年以前カリ	和文仏訳	担当者	小石 悟
---------	------	-----	------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	講義目標 仏和辞典を片手に持ち、逐語訳をしていてもフランス語にはなりません。この授業では日本語のテキストから出発して、自分の知っている構文を使いながら、省略、追加、倒置、言い換えなどを行い、いかにフランス人に分かりやすいフランス語を書くかを学びます。	1
	講義概要 作文を上達するためには、一にも二にも書いて直してもらいしかありません。この授業では自分が書いてきた文を全員で考えながらできるだけ良いフランス語に直していきます。不足している文法事項はその都度学習していきます。 最初のテキストは「フランス人のまっかなホント」を予定しています。訳してみたいというテキストがあれば要望に応じます。	2
		3
		4
		5
		6
		7
		8
		9
		10
		11
	評価方法	平常点と試験
テキスト参考文献	コレクション・フランス語「書く」(白水社) 謎がとけるフランス語 (第三書房)	

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	同上	1
	授業計画	2
		3
		4
		5
		6
		7
		8
		9
		10
		11
	評価方法	同上
テキスト参考文献		

02 年以前カリ	フランス語会話	担当者	C. ヴァンドルディ
----------	---------	-----	------------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>Conversation</p> <p>Destiné à faire parler même les plus timides, ce cours doit permettre à ceux qui le suivent de se débrouiller dans n'importe quelle situation de la vie quotidienne, mais aussi pour les plus avancés, d'avoir une conversation riche, construite et poussée avec des Francophones.</p>	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト 参考 文献			

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト 参考 文献			

02 年以前カリ	フランス語会話	担当者	C. ヴァリエンス
----------	---------	-----	-----------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	Dans ce cours, les étudiants pourront mettre en pratique leurs connaissances (lexicales, grammaticales) et les approfondir grâce à des conversations en groupe ou en sous-groupes. Pour chaque thème de conversation les expressions utiles et le vocabulaire seront donnés. Les thèmes seront choisis par les étudiants selon leurs centres d'intérêt.	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	Un test oral... La présence des étudiants sera mise en compte.		
テキスト参考文献			

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	Idem	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	Un test oral		
テキスト参考文献			

02 年以前カリ	フランス語会話	担当者	F. ルーセル
----------	---------	-----	---------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>L'objectif de ce cours est de vous aider à faire des progrès à l'oral en français (aussi bien en « compréhension » qu'en « expression »)</p> <p>Chaque cours comportera en principe trois séquences :</p> <p>1) Une séquence de parole libre (« Quoi de neuf ? »), où chacun s'exprimera sur un mode le plus proche possible de celui de la conversation authentique.</p> <p>2) Une activité collective mobilisant et développant les compétences orales, activité en principe basée sur un document (imprimé ou matériel sonore etc.), fourni chaque semaine par l'enseignant. Les activités proposées seront aussi variées que possible, selon les besoins, les desiderata, et les capacités du groupe.</p> <p>3) La présentation à la classe, par un(e) étudiant(e), d'un travail préparé à l'avance (chacun devra notamment produire chaque semestre un « exposé » sur un aspect de la culture ou de la société japonaises)</p>	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
評価方法	Le travail personnel et la participation active et régulière aux activités de classe seront le plus important. Il y aura aussi des petits tests ponctuels.		11
テキスト参考文献	Pas de manuel à acheter.		12

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
評価方法			11
テキスト参考文献			12

02 年以前カリ	フランス語会話	担当者	H. ドリエップ
----------	---------	-----	----------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>Le but de ce cours est de permettre aux étudiants de progresser afin qu'ils puissent s'exprimer de manière naturelle dans des situations de vie courante en France.</p> <p>Pendant le premier cours, nous définirons la demande des étudiants et les thèmes à étudier. Puis à chaque cours, nous écouterons et analyserons de petites conversations, et chercherons et étudierons ensemble d'autres formules à partir de photocopies tirées du manuel. Enfin, nous écrivons par petits groupes des dialogues sur le thème du jour, avant de nous amuser à les jouer ensemble.</p> <p>Suivant l'actualité et les désirs des étudiants, nous pourrions aussi passer quelques minutes à discuter de ce qui se passe dans le monde ou dans la vie quotidienne des étudiants.</p>	授 業 計 画	1
			2
			3
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
評価方法	Une participation active sera bienvenue. Le mode d'évaluation sera décidé ensemble.		
テキスト参考文献	Guide pratique de la communication DIDIER		

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	同上.	授 業 計 画	1
			2
			3
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
評価方法			
テキスト参考文献			

02年以前カリ	フランス語会話	担当者	L. フォンテーヌ
---------	---------	-----	-----------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	Ce cours met l'accent sur la compréhension auditive, la prononciation et l'expression orale. Nous suivrons la progression du manuel choisi, "Exercices d'oral en contexte", qui est de niveau intermédiaire. Chaque chapitre du manuel propose des documents sonores qu'une série de questions aide à décrypter; viennent ensuite quelques exercices de prononciation; puis une section où l'étudiant joue différentes situations d'après des scénarios qu'il invente, s'inspirant des documents sonores écoutés au début de la leçon.	授 業 計 画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

評価方法

L'étudiant sera évalué d'après sa participation aux cours et les efforts fournis tout au long de la session; il y aura aussi un petit examen oral pour mesurer ses progrès en compréhension et prononciation.

テキスト参考文献

Exercices d'oral en contexte, niveau intermédiaire, Hachette Livre, FLE, Paris, 2002

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要		授 業 計 画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

評価方法

テキスト参考文献

02年以前カリ	フランス語会話	担当者	M. ミズバヤシ
---------	---------	-----	----------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>Objectif : Ce cours a pour objectif l'acquisition de connaissances et de techniques qui permettront aux étudiants de prendre la parole en français d'une manière aussi décontractée que possible.</p> <p>Contenu : Nous travaillerons à partir d'articles de presse, qui évoquent la vie quotidienne des Français et des Japonais d'aujourd'hui. Ce matériel sera le point de départ de notre cours de conversation dont l'objectif est d'améliorer sa capacité de compréhension et d'expression en français. Ce cours s'adresse aux étudiants qui aiment parler, qui jouissent du plaisir de la conversation aussi bien en français qu'en japonais et qui sont décidés à participer activement à tous les types d'exercices proposés.</p>	授業計画	1. Conversation autour d'un thème proposé soit par les participants soit par l'enseignant.
			2. <i>Idem</i>
			3. <i>Idem</i>
			4. <i>Idem</i>
			5. <i>Idem</i>
			6. <i>Idem</i>
			7. <i>Idem</i>
			8. <i>Idem</i>
			9. <i>Idem</i>
			10. Comment faire un petit exposé ?
評価方法	Un exposé à faire pendant le deuxième semestre. Participation au cours.		11. Conversation autour d'un thème proposé soit par les participants soit par l'enseignant.
テキスト参考文庫	Photocopies		12.. <i>Idem</i>

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	Le cours se fera avec les mêmes objectifs qu' au premier semestre.	授業計画	1. Conversation autour d'un thème proposé soit par les participants soit par l'enseignant.
			2. A la fin du cours, chaque étudiant, à tour de rôle, fera un exposé sur un thème de son choix.
			3. <i>Idem</i>
			4. <i>Idem</i>
			5. <i>Idem</i>
			6. <i>Idem</i>
			7. <i>Idem</i>
			8. <i>Idem</i>
			9. <i>Idem</i>
			10. <i>Idem</i>
評価方法	Un exposé à faire pendant le deuxième semestre. Participation au cours.		11. <i>Idem</i>
テキスト参考文庫	Photocopies		12. Séance de synthèse

02年以前カリ	フランス語会話	担当者	R. サクマ
---------	---------	-----	--------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<ul style="list-style-type: none"> • Chaque leçon du manuel comporte un dialogue, de la grammaire et des exercices écrits et oraux. • Nous nous efforcerons de faire une leçon en 2 cours. • Les dialogues devront être mémorisés. • Les étudiants auront à fournir un travail personnel. 	授業計画	1	leçon 1 La chance de Sophie
			2	"
			3	leçon 2 Je compte sur vous!
			4	"
			5	leçon 3 Ça commence bien!
			6	"
			7	leçon 4 C'est toi que je préfère...
			8	"
			9	leçon 5 L'arrivée à Cannes
			10	"
			11	Révisions
			12	test final
評価方法				
テキスト参考文献	C'est la vie (2) (leçon 1 ~ leçon 5) + C-60 x 2			

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	(Voir 1er semestre)	授業計画	1	leçon 6 La suite!
			2	"
			3	leçon 7 La vie de soldat
			4	"
			5	leçon 8 Facile à dire...
			6	"
			7	leçon 9 Ça, c'est trop bête!
			8	"
			9	leçon 10 Quelle vie!
			10	"
			11	Révisions
			12	test final
評価方法	Travail personnel (1/2) Examen final (1/2)			
テキスト参考文献	C'est la vie (2) (leçon 6 ~ leçon 10) sōbi-shuppansha + Cassette - 60 x 2			

02年以前カリ	フランス語会話	担当者	S. ジュンタ
---------	---------	-----	---------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p><i>Rien ne fait voir l'avenir couleur de rose comme de le contempler à travers un verre de Chambertin.</i> A. Dumas</p> <p>【講義のねらい】フランスを語るうえで欠かせないワインはフランスの誇るべき文化遺産でもあります。ワインを理解しながら、より一層の作文力を身につけることを目的とします。</p> <p>【講義内容】この授業はワインに関する10のテーマから、その歴史とワインに関する歴史上の人物のエピソードなども取りまぜ文章力を高めます。補助教材としてのビデオはワインとフランス料理の関係を興味深く学べます。</p> <p style="text-align: center;"><i>À votre santé !</i></p>	授 業 計 画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
評価方法	授業への参加態度による評価		11
テキスト参考文献	ワインの話 [20/20] (CD付) 駿河台出版社		12

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要		授 業 計 画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
評価方法			11
テキスト参考文献			12

02年以前カリ	時事フランス語	担当者	中村 公子
---------	---------	-----	-------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p><授業目的></p> <p>フランス語の聴解練習。 様々なタイプの聴解練習を通して、大意がつかめるようになる程度に訓練していく。</p> <p><授業概要></p> <p>フランス語を聞いて内容に関する質問に答える形で授業を進める。また「聞く」ために必要になる「音」の認識を助けるため発音練習もあわせて行う。</p> <p>この授業はフランスへ長期留学/長期滞在をしていない人を対象に行う。フランスに長期滞在していた人はご遠慮ください。一ヶ月の語学研修程度の滞在は可。</p>	授業計画	<p><u>聴解練習の題材となる録音例</u></p> <p>1 電車内での会話</p> <p>2 お店での買い物</p> <p>3 レストランで</p> <p>4 天気予報</p> <p>5 留守番電話</p> <p>6 駅構内、車内放送</p> <p>7 道案内</p> <p>8 電話の自動案内</p> <p>9 料理講習</p> <p>10 駅での会話</p> <p>11</p> <p>12</p> <p>内容、順番は変更あり。</p>
	評価方法		出席と授業参加態度、課題の提出、授業内コンクール、試験。
	テキスト参考文献		プリント。

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p><授業目的></p> <p>フランス語の聴解練習。 様々なタイプの聴解練習を通して、大意がつかめるようになる程度に訓練していく。</p> <p><授業概要></p> <p>フランス語を聞いて内容に関するフランス語での質問に答える形で授業を進める。録音はより長くより自然なものを使用する。引き続き発音練習も行う。</p> <p>この授業はフランスへ長期留学/長期滞在をしていない人を対象に行う。フランスに長期滞在していた人はご遠慮ください。一ヶ月の語学研修程度の滞在は可。</p>	授業計画	<p><u>聴解練習のための録音例</u></p> <p>1 公共アナウンス</p> <p>2 テレビ/ラジオの番組案内</p> <p>3 情報案内</p> <p>4 インタビュー番組</p> <p>5 映画の宣伝</p> <p>6 フランスの大学案内</p> <p>7 コマーシャル</p> <p>8 旅行記</p> <p>9 街角インタビュー</p> <p>10 子供向け授業</p> <p>11 物語/伝記</p> <p>12 中高生の生活</p> <p>内容、順番は変更あり。</p>
	評価方法		出席、授業参加態度、課題の提出、授業内コンクール、試験。
	テキスト参考文献		プリント。

02年以前カリ	時事フランス語	担当者	横地 卓哉
---------	---------	-----	-------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>講義目的 フランス語で書かれた時事的な文章（新聞記事など）を読み、正しく理解することができるようにするとともに、国際社会に対する関心を高め、与えられた情報をもとに可能な限り客観的かつ的確にものごとを判断する能力をやしなう。</p> <p>講義概要・授業内容 主たるテキストとしては、フランスの日報 <i>Le Monde</i> のインターネット版の第一面 (A a Une) を用いる。毎回授業時における最新の一面トップ記事を取りあげ、その内容の把握を試みるとともに、フランス語として、語彙・文法構造などを詳しく見ていく。時間の許す限り、A la Une の他の記事にも目をおし、フランスで、あるいは世界で今何が問題になっているのかを考える。</p> <p>適宜 NHK のラジオ国際放送 (Radio Japan) のフランス語によるニュース、フランス国営ラジオ (Radio France) のニュースも取りあげ、できればおおまかな内容把握ができる程度の聴取能力もやしないたい。</p> <p>授業にはパソコン教室を使用する。基本的なパソコン操作ができることを前提として授業を進める。 授業時以外にも、自宅、あるいは大学でインターネットを用いた作業をする時間がある程度必要になる。</p>	<p>要望・諸注意 時事的な内容のものに限らず一般にいえることですが、外国語の運用能力というものは、多くのみなさんが考えているような「語学力」だけに左右されるものではありません。そのひとの思考能力自体が問題になります。母語（われわれの場合は日本語）で表現されたものが理解できないひとに、外国語で表現されたものが理解できるわけがありません。思考能力はひとによってちがうでしょうが、だれでもまだまだいくらかでものぼすことができる、と少なくとも個人的には信じています。まずは安易に答えを求めようとせずに、自分で考えてみることです。</p> <p>思考能力と同じくらい重要なのが知識・情報です。外国語の単語、文章構造などでわからない部分があっても、自らが持っている情報が多ければ、ある程度正しく内容の理解はできるものです。逆に、必要な情報を全く持っていなければ、内容の理解はおぼつかないでしょう。たとえ外国語を日本語に置き換えることができたとしても、当の本人は何もわかっていない、ということになります。</p> <p>とりあげる <i>Le Monde</i> の一面トップ記事は、もちろんフランス国内のニュースのこともありますが、国際情勢に関する記事である場合が非常に多い。毎日、新聞の一面と国際面には目をおすようにしてください。</p> <p>実際の授業の進め方、課題の内容、参考文献等については第一回目（4月8日）に説明します。受講を希望する人は必ず出席してください。</p>
	<p>評価方法 定期試験は行わない。 毎回課題を出し、次回の授業時に提出を求める。 正当な理由なしに2回連続して欠席、あるいは課題の提出をおこたったもの、正当な理由のない欠席が学期をおして4回を越えた者は成績評価の対象としない。 30分以上遅刻した場合は出席したとはみなさない。</p>	
	<p>テキスト 参考文献</p>	

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	同上	授業計画	同上
	評価方法		同上
	テキスト 参考文献		

02年以前カリ	商業フランス語	担当者	C.バジェス
---------	---------	-----	--------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>ビジネスのあらゆるシチュエーションにおいて口頭及び文書で対応できる力を身につける事を目的とします。</p> <p>この授業では、ビジネスにおける様々なシチュエーション（ビジネスレターやメモの作成、電話応対、アポイントメントの取り方など）を設定し、会話や文章作成の練習を行っているから、商業フランス語を学習します。</p>	1	
		2	
		3	
		4	
		5	
		6	
		7	
		8	
		9	
		10	
		11	
		12	
評価方法	平常点 及び レポート (期末)		
テキスト参考文献	プリント		

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要		1	
		2	
		3	
		4	
		5	
		6	
		7	
		8	
		9	
		10	
		11	
		12	
評価方法			
テキスト参考文献			

02年以前カリ	商業フランス語	担当者	大井正博
---------	---------	-----	------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	フランス語を一通り勉強した人が経済関連の特定の専門用語をマスターすることにより、いわゆるビジネスフランス語の理解力を深めるためのクラスである。実際の授業は各自に翻訳をしてもらい、それを訂正しながら各種解説を加えてゆく。	授業計画	1
			2 Avant-propos et Le temps de la croissance
			3 Le temps de la croissance et La France change
			4 La France change et La population
			5 La population active
			6 L'agriculture
			7 Les succès de l'industrie et du secteur tertiaire
			8 L'Etat et le soutien de la croissance (1)
			9 L'Etat et le soutien de la croissance (2)
			10 L'intégration au marché mondial
			11 La rupture des grands équilibres
			12 La crise à la française
評価方法	ペーパーテストの結果を中心に、出席率と授業態度などを加味して評価する。		11 La désillusion face aux politiques conjoncturelles
テキスト参考文献	J. et G. Brémont, "L'économie française face aux défis mondiaux", Hatier		12

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
評価方法			11
テキスト参考文献			12

02年以前カリ	フランス語学概論	担当者	古川直世
---------	----------	-----	------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>講義目的：フランス語という外国語が「習得する」対象であるだけでなく、同時に「考える」対象であるということを講義を通して学生へ伝えることをめざす。このように「考える」訓練によってフランス語という言葉に対する知的好奇心を引き出し、フランス語学習へのさらなる動機づけを与えることを目標とする。</p> <p>講義概要：フランス語学における大きなトピックを前期と後期にひとつずつ設定し講義を行なう。ふたつの大きなトピックを通して出来る限りフランス語学の全般的な具体的知識を得ることができるよう努める。講義の重点はフランス語に見られるさまざまな制約の存在理由について考えることにある。</p>	授業計画	1 全般的なオリエンテーション
			2 冠詞の体系（1）：定冠詞の機能
			3 冠詞の体系（1）：定冠詞の機能
			4 冠詞の体系（1）：定冠詞の機能
			5 冠詞の体系（2）：不定冠詞の機能
			6 冠詞の体系（2）：不定冠詞の機能
			7 冠詞の体系（2）：不定冠詞の機能
			8 冠詞の体系（3）：部分冠詞の機能
			9 冠詞の体系（3）：部分冠詞の機能
			10 冠詞の体系（3）：部分冠詞の機能
			11 冠詞の体系（4）：無冠詞の機能
			12 前期のまとめ
評価方法	試験と出席状況による。		
テキスト	ハンドアウトを配付する。参考文献は必要に応じて講義中に指示する。		

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>講義目的：フランス語という外国語が「習得する」対象であるだけでなく、同時に「考える」対象であるということを講義を通して学生へ伝えることをめざす。このように「考える」訓練によってフランス語という言葉に対する知的好奇心を引き出し、フランス語学習へのさらなる動機づけを与えることを目標とする。</p> <p>講義概要：フランス語学における大きなトピックを前期と後期にひとつずつ設定し講義を行なう。ふたつの大きなトピックを通して出来る限りフランス語学の全般的な具体的知識を得ることができるよう努める。講義の重点はフランス語に見られるさまざまな制約の存在理由について考えることにある。</p>	授業計画	1 動詞の体系（1）：法、時制、アスペクト
			2 動詞の体系（1）：法、時制、アスペクト
			3 動詞の体系（1）：法、時制、アスペクト
			4 動詞の体系（2）：半過去
			5 動詞の体系（2）：半過去
			6 動詞の体系（2）：半過去
			7 動詞の体系（3）：代名動詞
			8 動詞の体系（3）：代名動詞
			9 動詞の体系（3）：代名動詞
			10 関係節の諸相（1）
			11 関係節の諸相（2）
			12 後期のまとめ
評価方法	試験と出席状況による。		
テキスト	ハンドアウトを配付する。参考文献は必要に応じて講義中に指示する。		

02 年以前カリ	フランス文学概論	担当者	保 莉 瑞 穂
----------	----------	-----	---------

03 年カリ	フランス文学概論 a	担当者	保 莉 瑞 穂
--------	------------	-----	---------

講義目的および講義概要	<p>本を読むことは人間にとって死活問題ではない。しかし、昔から本を読む人間は跡を絶たない。なぜか。この講義では、文学とは何か、また文学作品を読むとはどういう行為なのか、について実際の作品を読みながら考察することを目的とする。取り上げる作品はフランス文学を中心にするが、それ以外のものも必要に応じて随時取り上げたい。</p> <p>受講者への要望： この講義では、受講者にかなりの本を読み、学期ごとに3本程度のレポートの提出を義務づける。従って、読むこと、思考すること、書くことが大きく要求されるから、途中で挫折するものが多数出てくるのが予想される。受講の登録をするに当たって、そのことを十分考慮することをあらかじめ注意しておく。</p> <p>講義概要： 授業計画に示した通りであるが、文学作品というものは一種の生き物であり、それを扱う授業も型どおりに進むとは限らない。授業の内容がその時々状況によって変化することもあるだろう。むしろそうやってこそ授業が生きている証拠であることを受講者に認識してもらいたい。</p>	授 業 計 画	1 講義の進め方、一般的な注意、受講者への要望について説明する。	
	評価方法		学期中に提出する数本のレポートおよび出欠による。	2 文学とは何か。文学作品を読むとはどういう行為なのかについて考える。
				3 ヨーロッパ文学の母胎になった古代ギリシアの哲学と文学について。
テキスト参考文献	随時プリントを配布する。参考書は必要に応じて教室で指示する。		4 同じくヨーロッパ文学の母胎になった聖書の世界について。	
			5 フランス・ルネサンスの文学：ラブレールとモンテーニュについて。	
			6 同上	
			7 近代哲学の祖デカルトの『方法序説』について。	
			8 パスカルの『パンセ』について。	
			9 モラリストの文学について。	
			10 18世紀の啓蒙思想と文学について。	
			11 同上。	
			12 同上。	

03 年カリ	フランス文学概論 b	担当者	保 莉 瑞 穂
--------	------------	-----	---------

講義目的および講義概要	同上	授 業 計 画	1 ロマン主義と写実主義について。
			2 バルザックの小説の世界について。
			3 スタンダールの小説の世界について。
			4 フランス近代詩の誕生：ボードレールの『悪の華』について。
			5 象徴派：ヴェルレーヌとランボーについて。
			6 同上。
			7 20世紀の文学の諸問題。意識と無意識。
			8 シュールレアリスムの文学。
			9 プルーストの小説の独自性について。
			10 文学の言語に対する作家の自覚をめぐって。
			11 同上。
			12 同上。

02年以前カリ	フランス語史	担当者	山田 秀男
---------	--------	-----	-------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>フランス語の文法を学んでも、何故そうなるのかわからないことが、誰でも少なからずあるだろう。例えば、travailの複数形はtravauxであり、femmeは[ファム]と発音するのだと教えられても、何故そうなるのかは誰も教えてくれないだろう。</p> <p>そこで、現代フランス語が形成されていく過程を見ることによって、こうした疑問点を解明し、フランス語に関する知識と理解を一段と深めることを目指します。</p> <p>すなわち、フランス語の母体であるラテン語から出発し、さまざまな時代の多くの人々の努力によって、現代フランス語が形成されるまでの主要な流れを概観する。</p> <p>まず、各時代のフランス語の特徴を理解するため、それぞれの時代の「歴史的背景・社会的状況」を概観した後、その時代のフランス語を、「語彙」、「発音と綴り字」、「文法・統語論」、といった具体的な面から検討する。そのあとで、各時代を代表する作家の作品の抜粋を取り上げて、その時代のフランス語の文章の実例を見ることにより、それぞれの時代のフランス語の特徴を確認していく。</p>	授業計画	1 一年間の講義方針、講義内容から、使用テキストや参考文献、評価方法など全般の説明。
			2 フランス語の母体である古典ラテン語を中心に、それを取り巻く社会の状況や歴史の流れを概観する。
			3 俗ラテン語(1) 古典ラテン語が次第に退化して、俗ラテン語ができあがっていく過程を見る。
			4 俗ラテン語(2) 俗ラテン語がさらに変化し、古典ラテン語から一段と離れていく状態を見る。
			5 古フランス語(1) 俗ラテン語からフランス語の最も初期の状態へと変わっていく状況を見る。
			6 古フランス語(2) 古フランス語が広く使われると同時にますます変化していく様相を見る。
			7 古フランス語(3) 古フランス語による代表的作品『ローランの歌』と『オーカッサンとニコレット』の引用を読む。
			8 中期フランス語(1) 古フランス語が変化し、中期フランス語となり、その重要性が増していく状況を見る。
			9 中期フランス語(2) 中期フランス語の実例として、デュ・ベレーとモンテーニュの文章の引用を検討する。
			10 古典フランス語(1) 近代フランス語の始まりといわれる十七世紀のフランス語を取り巻く状況を見る。
			11 古典フランス語(2) 十七世紀のフランス語がどのようにして確立されていくかを見る。
			12 古典フランス語(3) ヴォージュラとパスカルの記事の引用によって、古典フランス語の実例を見る。
評価方法	評価は、出席を重視し、出席点を中心とした平常点と定期試験とによる。		
テキスト参考文献	山田 秀男 著：『フランス語史』、駿河台出版社。 参考文献は、講義中に指示し、紹介する。		

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要		授業計画	1 十八世紀フランス語(1) 十八世紀フランス語の歴史的背景と社会状況を見る。
			2 十八世紀フランス語(2) 十八世紀フランス語の具体的な状態を検討する。
			3 十八世紀フランス語(3) ヴォルテールとルソーの引用によって、十八世紀フランス語の実例を見る。
			4 十九世紀フランス語(1) 十九世紀の歴史的な背景と社会状況を概観する。
			5 十九世紀フランス語(2) 十九世紀フランス語の状態をさまざまな見地から検討する。
			6 十九世紀フランス語(3) ユゴーとリトレの文章の引用によって十九世紀フランス語の実際を見る。
			7 二十世紀フランス語(1) 第一次世界大戦以降のフランスの歴史的背景・社会状況を概観する。
			8 二十世紀フランス語(2) 二十世紀フランス語の特徴をさまざまな角度から検討する。
			9 現代フランス語(1) 二十世紀フランス語と現代フランス語との相違点・問題点の検討。
			10 現代フランス語(2) 現代フランス語の特質とその変化の傾向について検討する。
			11 現代フランス語(3) 現代語の大きな特徴の一つであり、現代社会に不可欠な略語について検討する。
	評価方法		
テキスト参考文献			

02年以前カリ	フランス文学史	担当者	江花輝昭
---------	---------	-----	------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>「フランス宮廷社会と文学」と題し、16世紀～18世紀のいわゆるアンシャン・レジーム期の社会を「宮廷社会」として規定した社会学者ノルベルト・エリアスの分析を踏まえ、その社会と芸術の概要、相互関係等を考察します。また、そうした社会のあり方が当時の文学をどのようなものとして形成したか、更には、後世の文学、社会における「フランス的性格」に及ぼした影響を及ぼしたのか、といった問題にも触れる予定です。</p> <p>この授業では、「講義支援システム」を利用する予定ですので、そのつもりで受講してください。また、出席チェックを兼ねて毎回簡単なアンケートに答えてもらいます。</p>	授業計画	1 授業概要および年間スケジュール等の説明
			2 宮廷社会とは何か
			3 宮廷社会の特質（その1）
			4 宮廷社会の特質（その2）
			5 宮廷社会の特質（その3）
			6 宮廷芸術の世界（その1）
			7 宮廷芸術の世界（その2）
			8 宮廷芸術の世界（その3）
			9 モリエールの『町人貴族』分析（その1）
			10 モリエールの『町人貴族』分析（その2）
			11 モリエールの『町人貴族』分析（その3）
			12 前期のまとめ
評価方法	学期末レポート。ただし、出席率の悪い場合は評価対象外とする。		
テキスト	なし		
参考文献	ノルベルト・エリアス『宮廷社会』（法政大学出版局） 横山・朝比奈編著『はじめて学ぶフランス文学史』（ミネルヴァ書房）		

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>前期の講義を踏まえ、後期においては、宮廷美学がフランス文学に及ぼした影響、特に「ガラントリーの美学」および「心理主義的傾向」について主に考察する予定です。</p>	授業計画	1 前期の総括と後期の展望
			2 宮廷美学と古典主義（その1）
			3 宮廷美学と古典主義（その2）
			4 宮廷美学と古典主義（その3）
			5 ガラントリーの美学（その1）
			6 ガラントリーの美学（その2）
			7 ラ・ファイエット夫人『クレヴの奥方』分析（その1）
			8 ラ・ファイエット夫人『クレヴの奥方』分析（その2）
			9 ラ・ファイエット夫人『クレヴの奥方』分析（その3）
			10 宮廷社会と後世の文学
			11 全体のまとめ
			12 全体のまとめ
評価方法	前期に同じ		
テキスト 参考文献	前期に同じ		

02年以前カリ	フランス語学各論	担当者	小石 悟
---------	----------	-----	------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	講義の目的 論理的な文を書くために必要な文法を学習する。	授業計画	1
	講義概要 多少とも論理的な文を書こうとすると、原因・結果・譲歩・目的・仮定など文と文との関係を示す表現が必要になります。文法的には接続詞、前置詞、動詞など多様な表現を使い分ける必要があります。すべての項目を取り上げることは不可能なので、特に原因、結果、譲歩を表す表現を中心に学習します。		2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	テスト		
テキスト 参考 文献			

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	講義目的 冠詞のないフランス語はありませんが、冠詞は日本語にないために、日本人にとっては最も厄介な問題です。フランス語がかなり上達しても、最後まで冠詞は問題になります。できるだけ早い時期に、冠詞に対する感受性を養うことが必要です。		1
	講義概要 説明と多様な練習問題を通して、冠詞およびその他の限定詞、無冠詞についてに理解を深める。		2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	テスト		
テキスト 参考 文献			

02年以前カリ	フランス文学各論	担当者	根本 祐 徳
---------	----------	-----	--------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>講義の目標 今年度の講義の題はフランス恋愛小説入門で、出来るだけ多くの小説を読んでもらうことを目標にします。</p> <p>講義の概要 『クレヴの奥方』から『ドルジュ伯の舞踏会』さらには現代の恋愛のありさまを描いたA.ジャルダンの『妻への恋文』まで、文庫本で読める小説を取り上げ、出来るだけ原文で面白さを味わいながら、登場人物の心理とその行動を考察していきます。</p> <p>講義の進め方については、最初の授業で話します。履修希望者は必ず出席してください。</p>	授業計画	1
			2
			3
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
評価方法	前後期乗レポートと平常点（参加度など）によって評価します。		
テキスト 参考 文献	プリント配布		

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト 参考 文献			

02年以前カリ	フランス語学講読	担当者	小石 悟
---------	----------	-----	------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>講義の目的 読むための文法ではなく、書くために必要な文法は何かを考える。</p> <p>講義概要 フランス語を書いてみると、今までの文法だけでは不足していると思われることがあります。この授業ではそのような欠落している部分を補いながら、フランス語学の色々な面について考えていきます。 これをやって欲しいという学生からの要望が適宜応じます。</p>	授業計画	1 全体的なオリエンテーション
			2 前置詞
			3 "
			4 "
			5 形容詞の位置と意味
			6 "
			7 "
			8 副詞の種類と位置
			9 "
			10 中性代名詞
評価方法	テスト		11 二重代名詞
テキスト 参考 文献			12 "

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	同上		1 時制と法
			2 "
			3 "
			4 "
			5 articulateur(en effet, en fait, ainsi など)
			6 "
			7 名詞化
			8 "
			9 関係代名詞、二重関係代名詞
			10 "
評価方法	テスト		11 仮定法
テキスト 参考 文献			12 "

02年以前カリ	フランス語学講読	担当者	中村 公子
---------	----------	-----	-------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p><講義目的></p> <p>フランス語の文法の総復習。 フランス語の文法のまとめを通して、よくわかっていない部分や「文法」範疇では解決できない問題を意識して、一つでも多くのことを理解していく。</p> <p><講義概要></p> <p>フランス語の文法項目の中からいくつかの「テーマ」を決め、2～3人のグループで一つの項目を担当して、「まとめ」や練習問題提示などグループ発表をする。 グループ発表中の積極的参加は不可欠。</p> <p>注意：最初の授業時にこれまで使った文法のテキストを持参すること。</p>	授業計画	<p><参考> 2002年度前期に扱ったテーマ</p> <p>1 冠詞</p> <p>2 代名詞の種類と語順</p> <p>3 比較/最上級</p> <p>4 代名動詞</p> <p>5 関係代名詞</p> <p>6 直説法の時制：未来形</p> <p>7 直説法の時制：過去時制</p> <p>8 疑問代名詞</p> <p>9 条件法</p> <p>10 接続法</p> <p>11 現在分詞とジェロンディフ</p> <p>12 話法</p> <p style="text-align: right;">など</p>	
	評価方法		出席、授業参加態度、グループ発表、課題「文法ノート」の作成、以上の総合評価。	扱うテーマ、順番は変更あり。
	テキスト参考文献		必要に応じて授業中に指示する。	

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p><講義目的></p> <p>一つの項目についてより深く考え、初級の段階で学習した文法範疇では解決できない問題が出てきた時にどのように対処していけばよいのか、また考えを進めていけばよいのかを学びながらフランス語学について考える。</p> <p><講義概要></p> <p>「テーマ」を決め、そのテーマに関する練習問題から理解できないことを意識し、日本語/フランス語で書かれた文法書の記述や論文などの講読を通してより深く考えていく。</p> <p>課題は毎回かなりの量になる。宿題に加えて予習も必要になるので、そのつもりで受講すること。</p>	授業計画	<p>これまでに扱った「テーマ」の例。</p> <p>1 冠詞</p> <p>2 複合過去と半過去の使い分け</p> <p>3 単純未来と近接未来</p> <p>4 話法</p> <p>5 代名詞の種類と語順</p> <p>6</p> <p>7</p> <p>8</p> <p>9</p> <p>10</p> <p>11</p> <p>12</p> <p>変更あり。</p>	
	評価方法		出席、課題や予習を含む授業参加態度重視。 レポート または 試験。	
	テキスト参考文献		プリント。参考文献は授業中に指示する。	

02年以前カリ	フランス語学講読	担当者	山田秀男
---------	----------	-----	------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>この講読の授業で目指すところはただ一つである。それは、「辞書を引けば、どんなフランス語の文でも読めるような力をつける」こと以外にはないだろう。</p> <p>いうまでもなく、この目的を達成することは容易ではない。なんとか、これに一步でも近づくためには、着実な努力を積み重ねていく以外に道はない。</p> <p>まず最初は、勉強の仕方、問題点の調べ方、どのような文献や辞書があり、それらをどのように利用すればよいか、といったことから始め、質疑応答なども交えて、疑問点を残さないようにして進めていき、次第に本格的な読解へと入っていくようにしたい。</p>	授業計画	<p>1 一年間の授業の進め方、使用テキストや評価方法の説明など、具体的な情報を提供する。</p> <p>履修の意向のある者は、第一回目の授業に必ず出席すること。受講者の人数制限もあり得るので、これに出席しなかった者の登録は、原則として認められない。</p>
	評価方法		出席を重視し、出席点を高くする。それと、年に何回か担当してもらい、その内容とで評価する。
	テキスト参考文献		テキストはコピーを使用し、参考文献は必要に応じて指示・紹介する。
			<p>2~12 第二回目以降は、前もって割り当てておいた順番に従って、担当箇所のと訳と説明を行い、質問があれば、それに答えるというやり方で進めていく。</p> <p>なお、授業の進め方は、後期も同様である。</p>

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	授業計画	1
		2
		3
		4
		5
		6
		7
		8
		9
		10
		11
		12
評価方法		
テキスト参考文献		

02 年以前カリ	フランス文学講読	担当者	M. ミズバヤシ
----------	----------	-----	----------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>Objectif : Découvrir le plaisir de la lecture à une ou plusieurs voix. Lire seul en français n'est pas facile, mais si on parle avec d'autres personnes du texte qu'on est en train de lire, on se sent stimulé et on peut ainsi connaître la joie d'être allé jusqu'à la fin du livre.</p> <p>Contenu : Nous restons encore dans le monde de Michel Tournier avec la lecture d'un autre conte : <i>Pierrot ou les secrets de la nuit</i>. Ce sera pour nous l'occasion de pénétrer dans un univers rempli de rêves et de poésie, décrit avec une simplicité et une naïveté qui savent toucher aussi bien les enfants que les adultes.</p>	授業計画	1. Présentation générale.
			2. Lecture suivie du texte de M. Tournier
			3. Lecture suivie du texte de M. Tournier
			4. Lecture suivie du texte de M. Tournier
			5. Lecture suivie du texte de M. Tournier
			6. Lecture suivie du texte de M. Tournier
			7. Présentation de 4 livres pour avoir des idées de lecture en français
			8. Parmi les 4 livres présentés les étudiants en choisissent un à lire pendant les vacances
			9. Lecture suivie du texte de M. Tournier.
			10. Lecture suivie du texte de M. Tournier
			11. Lecture suivie du texte de M. Tournier
			12. Synthèse. Distribution du livre à lire pendant les vacances
評価方法	Rapport à remettre à la fin du deuxième semestre		
テキスト参考文庫	Photocopies		

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>Le cours se fera avec les mêmes objectifs qu'au premier semestre.</p>	授業計画	1. Le cours se déroulera avec le même rythme de lecture qu'au premier semestre.			
			2. 3. 4. 5. 6. 7. A partir de cette semaine, les étudiants parleront du livre lu pendant les vacances en petit groupe afin de résoudre les difficultés rencontrées au cours de leur lecture.			
			8. Exposé fait en groupe pour présenter le livre lu tout seul			
			9. Exposé fait en groupe pour présenter le livre lu tout seul			
			10. Exposé fait en groupe pour présenter le livre lu tout seul			
			11. Exposé fait en groupe pour présenter le livre lu tout seul			
			12. Synthèse et bilan			
			評価方法	Rapport à remettre à la fin du deuxième semestre		
			テキスト参考文庫	Photocopies		

02年以前カリ	フランス文学講読	担当者	佐原隆雄
---------	----------	-----	------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	19世紀小説の講読を行なう。 フランス語の文章を正確に読む力をつけたことを目標とする。 4月はさしあらず Gustave Flaubert の『Education Sentimentale』を教材に用いる。以降は受講者の希望を聞いたうえで決めたい。	授業計画	1
		2	
		3	
		4	
		5	
		6	
		7	
		8	
		9	
		10	
		11	
		12	
評価方法	最終授業時に試験を行なう。		
テキスト参考文献	プリント配布		

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	前期から継続して19世紀小説の講読を行なう。 原文で小説を読め楽しさを少しも理解してほしい。	授業計画	1
		2	
		3	
		4	
		5	
		6	
		7	
		8	
		9	
		10	
		11	
		12	
評価方法	最終授業時に試験を行なう。		
テキスト参考文献	プリント配布		

02年以前カリ	フランス文学講読	担当者	根本 祐 徳
---------	----------	-----	--------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	講義の目標 フランス文学に接しながら、フランス語の読解力をつけましょう。	授業計画	1
	講義の概要 昨年度後期に続いて、G.Apollinaireのcontes選集を読みます。一つ一つの作品は短いものですが、ある種の起承転結があって興味深いものです。 授業の進め方などについては最初の時間に詳しく話します。履修希望者は必ず出席して下さい。希望者が多い場合は授業の性格上制限することがあります。		2
			3
			4
評価方法	前後期の筆記試験と平常点によります。		5
テキスト 参考文献	<i>La rose de Hildesheim</i> G.Apollinaire 『ヒルデスハイムの薔薇』第三書房		6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
評価方法			5
			6
			7
テキスト 参考文献			8
			9
			10
			11
			12

02年以前カリ	フランス文学講読	担当者	平井 康和
---------	----------	-----	-------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	フランスの文学作品(小説)を読む能力を向上させ、作家・作品及び解釈の研究についての認識を深める。 Remy de Gourmont (1858-1915)の《D'un PAYS LOINTAIN》に収められた数篇を輪読する。作者の感性にふれ、その別題意識を理解する。	1
		2
		3
		4
		5
		6
		7
		8
		9
		10
		11
		12
評価方法	総合的に評価する。	
テキスト参考文献	プリントを配布する。	

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	同上	1
		2
		3
		4
		5
		6
		7
		8
		9
		10
		11
		12
評価方法		
テキスト参考文献		

02年以前カリ	フランス文学講読	担当者	保 莉 瑞 穂
---------	----------	-----	---------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	この授業ではバルザックの『グランド・ブルテージュ奇談』を講読する。これは短編ながらバルザックの世界を堪能させる名作であるが、それだけに文章は重厚で、決して読みやすいものではない。予習をしていない学生にはついていくことが困難かもしれない。しかし十分な予習をして授業に臨めば、バルザックの文体の素晴らしさを味わうことができるだろう。受講を決めるに当たって、上記のことをよく考えること。定員は30名として、それを超える場合には、小テストによって選考する。	授 業 計 画	1	
			2	
			3	
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
評価方法	学期末の筆記試験と平常点、および出欠の程度によって行う。			11
テキスト参考文献	バルザック『グランド・ブルテージュ奇談』（駿河台出版社）			12

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	同上	授 業 計 画	1	
			2	
			3	
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
評価方法				11
テキスト参考文献				12

02 年以前カリ	フランス文学講読	担当者	横 地 卓 也
----------	----------	-----	---------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>講義目的 文学作品をかたちづけていることばにこだわり、考えをあらたにする。</p> <p>講義概要・授業内容 一般的に「講読」の名で行われているいわゆる「和訳」の授業はおこなわない。 詩・小説・戯曲等さまざまなジャンルのすぐれた作品をとりあげ、フランス語による原文と日本語にされたものの双方を詳しく検討する。 テキストを声にするにも重きをおき、できるだけ多くのテキストを暗唱できるようにする。</p> <p>とりあげる予定のテキスト（プリントで配布する） Charles BAUDELAIRE <i>Les Fleurs du mal</i> Antoine de SAINT-EXUPERY <i>Le Petit Prince</i> Albert CAMUS <i>L'Etranger</i> Gustave FLAUBERT <i>Madame Bovary</i> Marcel PROUST <i>A la recherche du temps perdu</i> Paul CLAUDEL <i>Partage de midi</i> Jean GENET <i>Le Balcon</i> など (当然のことながら、授業で扱うことができるのは作品のごく一部分のみ。どの作品も原文、日本語にされたものともに簡単に入手できる。)</p>	授業計画	<p>要望・諸注意 訓練としての「和訳」の重要性を無視するわけではありませんが、あえて、いわゆる「講読」とは異なった授業形態をとります。承知の上で受講してください。 ことばの大切さをいまいちど考え直してみてください。</p> <p>授業の進め方等について第1回目（4月8日）にくわしく説明しますので、受講を希望する人は必ず出席してください。</p>
	<p>定期試験は行わない。 どの程度主体的・積極的に授業に参加しているかによって評価する。 (教室にやってくるだけでは評価の対象にならない。) 正当な理由なしに2回連続して欠席したものの、正当な理由のない欠席が学期をとおして4回を越えた者は成績評価の対象としない。</p>		
	テキスト参考文献		

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	同上	授業計画	同上
	評価方法		同上
	テキスト参考文献		

02 年以前カリ	フランス文化・社会概論	担当者	(春期)根本祐徳(秋期)横地卓哉
----------	-------------	-----	------------------

03 年カリ	フランス文化・社会概論 a	担当者	根本祐徳
--------	---------------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>フランス語、フランス文化、フランス文学など専門的なことを学ぶ上で必要なフランス・フランス語圏に関する基礎知識を学ぶ。</p> <p>本講義は複数の担当者によって行われ、地理歴史から日常生活にいたるまでさまざまな面にわたってフランスの文化・社会に関する基礎的なことごとを取り上げる。フランス語、フランス文学など専門的なことを学ぶ上で必要な知識なので、第一年次で受講することを強くすすめる。</p> <p>講義スケジュールや評価方法について第1回目(4月9日)に説明を行うので、受講希望者は必ず出席すること。</p>	授業計画	1. 4/9 ガイダンス 根本・横地
			2. 4/16 フランス語のことなど 横地卓哉
			3. 4/23 地理 鈴木隆
			4. 4/30 地理 鈴木隆
			5. 5/7 地理 鈴木隆
			6. 5/14 地理 鈴木隆
			7. 5/21 歴史 藤田朋久
			8. 5/28 歴史 藤田朋久
			9. 6/4 歴史 藤田朋久
			10. 6/11 経済 千代浦昌道
			11. 6/18 経済 千代浦昌道
			12. 6/25 経済 千代浦昌道
			13. 7/2 まとめ 根本祐徳
評価方法	定期試験 平常点(毎回出席カードで出欠をとる)		
参考文献	フランス文化・社会全般に関するものは4月9日に、個々のテーマに関するものはそれぞれの担当者が授業時に紹介する。		

03 年カリ	フランス文化・社会概論 b	担当者	横地卓哉
--------	---------------	-----	------

講義目的および講義概要	春学期参照	授業計画	1. 9/24 政治 井上スズ
			2. 10/1 政治 井上スズ
			3. 10/8 政治 井上スズ
			4. 10/15 教育 中村公子
			5. 10/29 フランス料理 江花輝昭
			6. 11/5 フランス料理 江花輝昭
			7. 11/12 フランス料理 江花輝昭
			8. 11/19 EU と女性 井上たか子
			9. 11/26 EU と女性 井上たか子
			10. 12/3 日常生活 中村公子
			11. 12/10 日常生活 中村公子
			12. 12/17 まとめ 横地卓哉
			評価方法
参考文献	春学期に同じ		

02年以前カリ	フランス事情	担当者	(春学期完結) 鈴木 隆
---------	--------	-----	--------------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>木の文化に対して石の文化とも言われるように、フランスの石造建築は我が国の木造建築とは異質の建築文化を体現している。本講義は文化としての建築を通してフランス文化を知ることが目的とする。</p> <p>現代の事象としての建築文化は歴史的蓄積の上に成立しているのみならず、歴史的な建築物自体が現代における公的資産として存在している。本講義ではフランスの歴史的な建築様式について講義し、必要に応じてフランス以外のヨーロッパの建築もとりあげる。</p> <p>なお、左記の授業計画には多少の変動もありうる。</p>	授業計画	1 古代ギリシャの建築1
			2 古代ギリシャの建築2
			3 古代ローマの建築1
			4 古代ローマの建築2
			5 初期キリスト教建築
			6 中世ロマネスクの建築1
			7 中世ロマネスクの建築2
			8 中世ゴシックの建築1
			9 中世ゴシックの建築2
			10 ルネサンスの建築1
			11 ルネサンスの建築2
			12 まとめ
評価方法	試験またはレポートにより評価する。		
テキスト参考文献	テキストは特に用いない。参考文献は授業中に必要に応じて示す。		

02年以前カリ	フランス事情	担当者	(秋学期完結) 藤田 朋久
		担当者	

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>講義目的： *比較を通じて、フランスばかりでなく、日本の社会についても理解を深める。 *歴史的な思考方法を身につける。 *ヨーロッパ中世史入門。</p> <p>講義概要： 「個人」と「自然観」の二つの問題に絞って、日仏、あるいはさらに広く日欧の比較を行います。またその際、特に歴史的な背景を中世に遡って論ずる予定です。</p>	授業計画	1 第1回目に授業計画表を配布する。
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	レポート (1回)		
テキスト参考文献	随時プリント配布。参考文献は教室で指示する。		

02年以前カリ	フランスの地誌	担当者	鈴木 隆
---------	---------	-----	------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>本講義はフランスの地域の実情、課題および政策を知ることを通して、フランスについての理解を深めると同時に、人間の生活および活動の場としての地域のあり方について考えることを目的とする。</p> <p>まず、地域の概念と実態および地域分析の方法についての概説を行い、それに続いて、フランスの具体的な地域に即して資料等を参照しながら講義を進める。</p> <p>なお、授業計画には多少の変動がありうる。</p>	授業計画	1 地域の概念と実態
			2 地域の概念と実態 (続)
			3 地域の概念と実態 (続)
			4 地域分析の方法
評価方法	主として試験またはレポートによって評価するが、出席もある程度評価の参考とする。		5 パリ盆地とイル・ド・フランス
			6 シャンパーニュ・アルデンヌ ピカルディ
テキスト参考文献	テキストは用いない。適宜、資料を配布する。		7 オート・ノルマンディ バス・ノルマンディ
			8 サントル
			9 西部フランス
			10 ブルターニュ
			11 ペイ・ド・ラ・ロワール
			12 ポワトゥ・シャラント

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	(同上)	授業計画	1 アキテーヌ
			2 リムザン
			3 ミディ・ピレネ
			4 ラングドック・ルシオン
評価方法	(同上)		5 プロヴァンス・アルプ・コート・ダジュール
			6 ローヌ・アルプ
テキスト参考文献	(同上)		7 オヴェルニュ
			8 フルゴーニュ
			9 ノール
			10 アルザス ロレーヌ
			11 フランシュ・コンテ
			12 コルシカ

02 年以前カリ	フランスの歴史	担当者	藤 田 朋 久
----------	---------	-----	---------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>講義目的： *フランス史の基礎知識を習得する。 *フランス社会の歴史的な特質を理解する。</p> <p>講義概要： フランス史の概説をおこないます。古代から近代まで、各時代を概観した上で、個別的な問題を取り上げて論じます。また関連史料を読んだり、ビデオやスライドなども見る予定です。</p> <p>参考文献： 福井憲彦編「フランス史」(新版世界各国史 12) 山川出版社。その他の文献については、教室で指示する。</p>	授業計画	1 インTRODクシヨN
			2 古代：ケルト時代
			3 古代：ガロ＝ローマ時代
			4 初期中世(1)
			5 初期中世(2)
			6 紀元1000年について(1)
			7 紀元1000年について(2)
			8 盛期中世(1)
			9 盛期中世(2)
			10 後期中世(1)
評価方法	試験(年2回)、レポート(年1回)、その他		11 後期中世(2)
テキスト参考文献	プリント配布。		12 まとめ

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	同上	授業計画	1 インTRODクシヨN
			2 16世紀(1)
			3 16世紀(2)
			4 17世紀(1)
			5 17世紀(2)
			6 18世紀(1)
			7 18世紀(2)
			8 フランス革命(1)
			9 フランス革命(2)
			10 19世紀(1)
評価方法	同上		11 19世紀(2)
テキスト参考文献	同上		12 まとめ

02年以前カリ	フランスの思想	担当者	若森栄樹
---------	---------	-----	------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>この講義ではフランスに限らずヨーロッパの思想を振り返ってみようと思います。私たちは自分たちの考え方を正しいと思いがちですが、もう一度根本から物事を考え直して見る必要があるのではないのでしょうか。そのためにソクラテスから始めて、デカルト、ニーチェ、ハイデガーを経て現代フランスの思想までをたどっていきます。学生諸君が自分を振り返るのに少しでも役立てば幸いです。前期ではソクラテスから啓蒙思想までを扱います。</p> <p>ソクラテスは科学でも宗教でもない思考方法を創始した人ですが、彼の思考を主に「ソクラテスの弁明」のうちに読み解き、そしてデカルトの「方法序説」第3部に表明された倫理を検討します。さらに時間が許せば、カントの「啓蒙とは何か」を熟読します。</p>	授業計画	1 ヨーロッパ的思考とは何か - ソクラテスの場合 (1)
			2 同 (2)
			3 同 (3)
評価方法	平常点とレポート		4 デカルトの倫理 (1)
			5 同 (2)
テキスト参考文献	授業の際支持する		6 同 (3)
			7 ルソーと社会理論 (1)
			8 同 (2)
			9 同 (3)
			10 カントにおける啓蒙の観念 (1)
			11 同 (2)
			12 同 (3)

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>この講義ではフランスに限らずヨーロッパの思想を振り返ってみようと思います。私たちは自分たちの考え方を正しいと思いがちですが、もう一度根本から物事を考え直して見る必要があるのではないのでしょうか。そのためにソクラテスから始めて、デカルト、ニーチェ、ハイデガーを経て現代フランスの思想までをたどっていきます。学生諸君が自分を振り返るのに少しでも役立てば幸いです。後期は前期に続き、19世紀から現代までを扱います。具体的にはニーチェ、フロイト、デリダ、ブランショなどについて述べます。現代思想が私たちの生活からかけ離れたものではなく、まさに生活に密着しているのだということを知ってもらいたいと思います。</p>	授業計画	1 ニーチェの「ツアラトウストラ」 (1)
			2 同 (2)
			3 同 (3)
評価方法	平常点とレポート		4 フロイトの精神分析 (1)
			5 同 (2)
テキスト参考文献	授業の際指示する		6 同 (3)
			7 同 (4)
			8 フランス現代の思想 (1)
			9 同 (2)
			10 同 (3)
			11 同 (4)
			12 同 (5)

02年以前カリ	フランスの美術	担当者	前川久美子
---------	---------	-----	-------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>フランスに限定せず西洋美術史全体を視野に入れ、そのなかにある比較的限定された一つの問題を追及します。人文科学特殊講義A(西洋美術史)の応用編と考えてください。</p> <p>本年度は、「だまし絵」について、日本語や欧文の文献を読みながら考える予定です。</p> <p>一方的な「講義」ではなく、聴講者が積極的に考え、発表、議論してゆきます。毎回必ず予習をして、積極的に授業に参加してください。</p> <p>聴講希望者が多すぎて人数の調整をしなければならない可能性もありますから、第一回目には必ず出席してください。</p>	授業計画	1 イントロダクション
			2~12 文献講読、関連事項についての発表など
評価方法	平常点(課題への取り組みと成果および発言などの授業への貢献)とテスト(場合によってレポートに変えることもある)による。		
テキスト参考文献	授業中に指示します。		

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	同上	授業計画	1~12 夏休みの課題の発表、文献講読など
		評価方法	同上
		テキスト参考文献	同上

02年以前カリ	フランスの音楽	担当者	松橋麻利
---------	---------	-----	------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>目的：フランスとその周辺の国々の音楽を比較することで、フランス音楽の特性を理解します。そしてそれに自分がどう反応するかまでを考えます。</p> <p>概要：今年度はジャンルを限定します。</p> <p>前期：「歌」、つまり演技をともなうオペラと、歌唱だけの歌曲に焦点を当て、できるだけ音と映像を活用しながら詩と音楽表現の可能性を探ります。対象とする時代は、18世紀古典派から19世紀ロマン派です。フランスだけでなく、ドイツやイタリアの作品も取り上げます。</p>	授業計画	1. オペラの成り立ちとモンテヴェルディの《オルフェオ》にみる劇的表現
			2. モーツァルトの《ドン・ジョヴァンニ》にみる人間描写
			3. ロマン派の幕開けを告げるヴェーバーの《魔弾の射手》
			4. シューベルト、シューマンにみるドイツ歌曲の主観的表現 その1
			5. シューベルト、シューマンにみるドイツ歌曲の主観的表現 その2
			6. フランス歌曲の洗練 その1 グノーほか
			7. フランス歌曲の洗練 その2 フォーレとドビュッシー 1
			8. フランス歌曲の洗練 その3 フォーレとドビュッシー 2
			9. ヴァーグナーの楽劇《トリスタンとイゾルデ》にみる究極のロマンティシズム
			10. ビゼーのオペラ・コミック《カルメン》にみるフランスのエキゾティスム
評価方法	出席と前期・後期の期末試験。		11. ドビュッシーのドラマ・リリック《ペレアスとメリザンド》の象徴主義
テキスト参考文献	<p>テキスト：適宜プリント配布。</p> <p>参考文献：グラウト/パリスカ著『新西洋音楽史』中・下（音楽之友社）。その他は授業時に紹介。</p>		12. 試験

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>後期：ピアノ音楽に焦点を当て、19世紀後半のフランスのフォーレ、ドビュッシー、サティ、ラヴェル、さらに20世紀のプーランクらの作品と、主にドイツ・ロマン派のシューベルト、シューマン、ショパン、ブラームスらの作品とを比較します。</p>	授業計画	1. シューベルト作品の微妙な陰翳	
				2. シューマン作品の詩的表現
				3. ブラームスの内向するロマン性
			4. ショパン作品の旋律と和声の魅力	
			5. フランスのピアノ音楽の独特な響きをつくる旋法性	
			6. ショパンの形式と精神を受け継ぐフォーレ作品の独自の発展 1	
			7. ショパンの形式と精神を受け継ぐフォーレ作品の独自の発展 2	
			8. ドビュッシー作品の象徴的な、あるいは昇華された絵画性 1	
			9. ドビュッシー作品の象徴的な、あるいは昇華された絵画性 2	
			10. ラヴェル作品の精巧な響き	
評価方法			11. 20世紀初期の「フランス六人組」のひとり、プーランクの作品にみる粋な洗練	
テキスト参考文献			12. 試験	

02年以前カリ	フランスの演劇	担当者	井村 順一
---------	---------	-----	-------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>現在フランス文化のなかで重要な位置を占めている演劇を取りあげ、その理解を深めることを目的とする。近代フランス演劇の基礎を築いた17世紀古典劇がいかなる独自性を確保したか、という真に焦点を当てて分析を進めた。</p> <p>講義前半では、演劇が社会的ステータスを確保した17世紀の時代背景、悲劇・喜劇等ジャンル問題、および劇詩人たちの業績について説明する。後半においては、コルネユの『一作品を取りあげ』当時の表現様式「バロック対古典主義」について具体的な考察を行う。</p>	授業計画	1 <17世紀フランス> 時代の概観
			2 言語の問題
			3 アカデーとサロン
			4 劇場と教会
			5 <趣味の移行> バロックと古典主義
			6 バロックと古典主義(つづき)
			7 <劇詩人たち> コルネユ
			8 "
			9 モリエール
			10 "
			11 ラシーヌ
			12 "
評価方法			
テキスト参考文献			

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要		授業計画	1 <「舞台は夢」の分析> 概観
			2 第1幕
			3 "
			4 第2幕
			5 "
			6 第3幕
			7 "
			8 第4幕
			9 "
			10 第5幕
			11 "
			12 おすい
評価方法	冬学期末に論述式の筆記試験を行う。		
テキスト参考文献	「土管補 フランス文学案内」(岩波文庫別冊) コルネユ「嘘つき男・舞台は夢」(岩波文庫)		

02年以前カリ	フランスの政治	担当者	井上スズ
---------	---------	-----	------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	現代フランスの政治の仕組みを理解させ、またフランスの政治の基底にあるフランス人の思考行動様式への関心を喚起することを目標としている。	授業計画	1 フランスの過去
	現代フランス政治に関するテキストを使用して、フランス政治の仕組みを説明する。その際関連する資料は別に配布する。テキストでカバーしえない最新の事情についても講義で述べる。		2 第五共和憲法
			3 同上
評価方法	春学期末にレポート提出		4 双頭の執行府
			5 同上
テキスト参考文献	P.モリス 『現代のフランス政治』		6 政府と「国家」
			7 議会
			8 中央集権国家の地方政府
			9 政党政治の基礎
			10 近年の政党政治の傾向
			11 圧力団体
			12 まとめ

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	目標同上 第五共和政のフランス外交について制度上の仕組みを述べ、対アフリカ政策の変遷、独仏枢軸とヨーロッパ統合等に絞って述べる。	授業計画	1 大統領外交。制度上の仕組み
			2 同上
			3 同上
評価方法	秋学期末にレポート提出		4 同上
			5 対アフリカ政策の変遷
テキスト参考文献	特になし。プリント配布。		6 同上
			7 同上
			8 同上
			9 独仏枢軸とヨーロッパ統合
			10 同上
			11 同上
			12 まとめ

02年以前カリ	フランスの経済	担当者	千代浦 昌 道
---------	---------	-----	---------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p><u>講義目的</u> フランス経済の歴史と現状を学び、その知識を世界と日本の政治・経済・社会諸問題についての正しい見方・考え方に役立てること。</p> <p><u>講義概要</u> フランス経済の現状の概観を説明した上で、現在のフランス経済の歴史的背景を形成している、主に18世紀世紀以後20世紀前半までのフランス経済発展史について講義する。</p>	授業計画	1 授業の進め方、テキスト・参考文献などについての説明、最近のフランスの政治経済情勢
			2 経済発展と工業化についての基礎知識
			3 フランス産業革命の特異性
			4 フランス産業革命前史1 (旧体制下の経済と社会)
			5 フランス産業革命前史2 (フランス大革命とナポレオンI世の時代)
			6 フランスの農業と産業革命
			7 人口増加の停滞とフランスの工業化
			8 フランスの天然資源問題と工業化
			9 フランスの保護主義とその工業化への影響
			10 フランスの植民地経営と工業化
評価方法	期末試験と出席点による。		11 フランス金融機関の特質と工業化
テキスト	統計資料などを随時配布する。		12 フランス工業化の社会的諸条件

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p><u>講義目的</u> 前期と同じ。</p> <p><u>講義概要</u> 第二次世界大戦後のフランス経済の成長と変遷を、主に経済計画と企業国有化・民営化の流れに沿って説明する。</p>	授業計画	1 フランス語経済専門用語の基礎知識、フランス経済の基礎データの説明
			2 戦後フランスの経済 (基礎経済統計)
			3 戦後フランスの政治と経済の概観1
			4 戦後フランスの政治と経済の概観2
			5 フランスの第1次国有化
			6 フランスの経済計画
			7 ドゴールとポンピドゥーの経済と経済政策
			8 ジスカールデスタンとバール・ブランの時代
			9 ミッテラン時代の経済と経済政策1 (第2次国有化と社会主義政策)
			10 ミッテラン時代の経済と経済政策2 (コアピタシオンと民営化の時代)
評価方法	期末試験と出席点による。		11 ミッテラン時代の経済と経済政策3 (欧州連合と通貨統合へ向けて)
参考文献	渡邊啓貴「フランス現代史」、中公新書、1998		12 シラク大統領時代の経済と経済政策

02年以前カリ	フランス文化・社会各論	担当者	井上 たか子
---------	-------------	-----	--------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>フランス文化・社会講読（木1）で読むシモーヌ・ヴェイユ Simone Veil の伝記のなかに出てくる出来事を中心に彼女が生きた20世紀がどんな時代であったかを学びます。</p> <p>シモーヌ・ヴェイユは、ユダヤ系フランス人の家庭に生まれ、17歳のときにアウシュヴィッツ強制収容所に送られましたが、生還。1974年、ジスカール=デスタン大統領のとき厚生大臣をつとめ、1975年の「妊娠中絶法」の制定に貢献しました。その後も、欧州議会の議長に選出されるなど、現役で活躍している女性政治家です。</p> <p>講読の授業に出ていなくても、分かるように独立した授業にしますが、できれば両方を連続して受講すれば、より充実したものになると思います。</p>	授業計画	1
			2
			3
評価方法	平常点（出席、発表、小テスト）を重視します。		4
テキスト参考文献	適宜プリントを配布		5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
評価方法			4
テキスト参考文献			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

02年以前カリ	フランス文化・社会講読	担当者	Ph. ヴァネ
---------	-------------	-----	---------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p><u>But du cours</u> :</p> <ul style="list-style-type: none"> - Pouvoir lire des textes à contenu politique, sociologique ou économique. - Comprendre le contexte historique et politique des événements qui surviennent. <p><u>Contenu</u> : Au début, lecture d'articles destinés aux collégiens et lycéens sur des sujets d'actualité ayant rapport à la France et aux relations internationales (Europe, francophonie, ONG, etc.). Plus tard, les articles seront tirés des journaux habituels.</p> <p><u>Méthode</u> :</p> <p>Je donne, une semaine à l'avance, le texte et une série de questions à préparer. Pendant le cours : lecture, réponse aux questions, travail sur quelques points de grammaire, informations sur le point abordé dans le texte.</p> <p>Les étudiants doivent tenir une liste des nouveaux mots.</p>	授業計画	1 Articles tirés de journaux pour enfants.
			2
			3
			4
			5
			6 Petit test de vocabulaire
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	Petits tests de vocabulaire et examen semestriel : vocabulaire, grammaire, compréhension des textes		Examen semestriel
テキスト参考文献	Photocopies		

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要		授業計画	1 Articles tirés de journaux pour lycéens.
			2
			3
			4
			5
			6 Petit test de vocabulaire (facultatif)
			7
			8
			9
			10 Article tiré du <i>Monde</i>
			11
			12
評価方法			Examen semestriel
テキスト参考文献			

02年以前カリ	フランス文化・社会講読	担当者	井上スズ
---------	-------------	-----	------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	辞書、文法知識を総動員してフランス語を正確に訳すように努めるとともに、フランス外交に関する知識を養う。 フランス外交全般についての概説書のうち主として「文化政策と仏語圏」を選ぶ。仏語圏の形成と維持は、今日に至るまでフランス外交政策の重要な一部門である。	授業計画	1 事前に担当者を指名し、毎回訳と内容説明を行う。全員から質問を受け意見を出してもらう。
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

評価方法	授業への参加度、期末の試験結果による
------	--------------------

テキスト参考文献	M.-C. Christine Kessler, <i>La politique étrangère de la France</i> (プリント)
----------	--

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	目標については、春学期に同じ 同テキストのうち主として「国家と平行外交」を選ぶ。国境外における災害・テロ等への人道援助についての政府とNGOとの関係が主なテーマとなる。	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

評価方法	春学期に同じ
------	--------

テキスト参考文献	春学期に同じ
----------	--------

02年以前カリ	フランス文化・社会講読	担当者	井上 たか子
---------	-------------	-----	--------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	シモーヌ・ヴェイユ Simone Veil の伝記を読みます。 彼女は、ユダヤ系フランス人の家庭に生まれ、17歳のときにアウシュヴィッツ強制収容所に送られたが、生還。1974年、ジスカール=デスタン大統領のとき厚生大臣をつとめ、1975年、中絶を合法化する。その後も、欧州議会の議長に選出されるなど、現役で活躍している女性政治家です。 フランス語の読解力を養うと同時に、彼女が生きた20世紀がどんな時代であったかを知ってほしい。できれば各論(木2)と合わせて受講すれば、より充実したものになるでしょう。 授業では、3~4人のグループでの共同学習も導入します。具体的な進め方について第1回めの授業で説明しますので、必ず出席してください。	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	平常点(出席、発表、小テスト)を重視します。		
テキスト参考文献	Maurice Szafran : <i>Simone Veil, Destin</i> , Ed. J'ai lu, 1996		

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

02年以前カリ	フランス文化・社会講読	担当者	江花輝昭
---------	-------------	-----	------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>パソコンを用いて、「話す」以外の「読む」、「聞く」、「書く」フランス語運用能力を総合的に向上させることを目標とします。</p> <p>インターネット上のホームページの記事等を加工して使い、毎回全員に読解や音声聞き取り、本文中に出てきた表現を応用した作文練習等の作業をこなしてもらいます。最後にこちらで作成したオンライン問題で作業のこなし具合をチェックします。また、記事に関連する和文仏訳等の課題もやってもらう予定です。</p> <p>レベル的には中級以上を想定しています。全員に同じ作業をしてもらいますので、教室内でぼんやりしていることは不可能です。詳しくは第1回目の授業で説明します。</p>	授業計画	1	
			2	
			3	
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
評価方法	オンライン・チェック問題の成績と提出課題評価による平常点。			11
テキスト参考文献	なし			12

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	同上	授業計画	1		
			2		
			3		
			4		
			5		
			6		
			7		
			8		
			9		
			10		
	評価方法				11
	テキスト参考文献				12

02 年以前カリ	フランス文化・社会講読	担当者	鈴木 隆
----------	-------------	-----	------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>本講義はフランスの環境に関する文献の講読を中心として講義を行なうことにより、フランスの文化と社会についての理解を深め、且つ高度なフランス語の習得を図ることを目的とする。</p> <p>講義ではフランスの自然環境および生活環境に関する文献の講読とそれに関する講義を通して、現代フランスの環境事情および環境政策について学ぶ。聴講する学生は予め割り充てられた文献の講読発表を行なう。</p> <p>左記の授業計画には多少の変動がありうる。</p>	授業計画	1 沿岸地帯の環境と政策
			2 沿岸地帯の環境と政策 (続)
			3 沿岸地帯の環境と政策 (続)
			4 沿岸地帯の環境と政策 (続)
			5 沿岸地帯の環境と政策 (続)
			6 沿岸地帯の環境と政策 (続)
			7 山岳地帯の環境と政策
			8 山岳地帯の環境と政策 (続)
			9 山岳地帯の環境と政策 (続)
			10 山岳地帯の環境と政策 (続)
評価方法	主として試験の結果によって評価する。授業中の発表も評価の参考とする。		11 山岳地帯の環境と政策 (続)
テキスト参考文献	テキストは適宜配布するので用意する必要はない。		12 山岳地帯の環境と政策 (続)

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	(同上)	授業計画	1 生活環境と政策
			2 生活環境と政策 (続)
			3 生活環境と政策 (続)
			4 生活環境と政策 (続)
			5 生活環境と政策 (続)
			6 生活環境と政策 (続)
			7 国と地方公共団体の取り組み
			8 国と地方公共団体の取り組み (続)
			9 国と地方公共団体の取り組み (続)
			10 国と地方公共団体の取り組み (続)
評価方法	(同上)		11 国と地方公共団体の取り組み (続)
テキスト参考文献	(同上)		12 国と地方公共団体の取り組み (続)

02年以前カリ	フランス文化・社会講読	担当者	藤田朋久
---------	-------------	-----	------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	講義目的： ＊フランス語の読解力を高める。 ＊中世社会史入門。 講義概要： 今年は中世の騎士や騎士道について、下記の文献を中心に読みます。 また理解を深めるために、中世の文学作品など、関連する資料を読んだり、ビデオを鑑賞する予定です。 <i>La Chevalerie racontée par Georges Duby, Perrin, 1998.</i>	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
評価方法	レポート (年2回)		11
テキスト参考文献	J・フロリ著「中世フランスの騎士」文庫クセジュ。その他の参考文献は教室で指示する。		12

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	同上	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
評価方法	同上		11
テキスト参考文献	同上		12

02年以前カリ	フランス文化・社会講読	担当者	前川久美子
---------	-------------	-----	-------

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>ルーヴル美術館所蔵のいくつかの名画について、やさしいフランス語で書かれたテキストを読みます。</p> <p>文法事項を復習しながら、たんにんに辞書を引き、文章の構造を把握したうえで、訳文を書いて授業にのぞんでください。</p> <p>聴講希望者が多すぎて人数の調整をしなければならぬ可能性もありますから、第一回目には必ず出席してください。</p>	授業計画	1 イン트로ダクション
			2~12 訳読など
評価方法	平常点とテストによる。		
テキスト参考文献	プリントを配ります。		

		担当者	
--	--	-----	--

講義目的および講義概要	同上	授業計画	1~12 訳読など
		評価方法	同上
		テキスト参考文献	同上

2003 年度

外国語学部共通科目シラバス

獨協大学

外国語学部共通科目 2003年度入学者用

目 次

◇ … 春学期開講科目
◆ … 秋学期開講科目

総合講座	◇ 佐藤唯行	1
総合講座	◆ 佐藤唯行	1
情報科学概論a	◇ 呉浩東	2
情報科学概論b	◆ 呉浩東	2
情報科学各論(入門)	◇ 各担当教員	3
情報科学各論(初級)「表計算入門」	◇・◆ 各担当教員	4
情報科学各論(初級)「プレゼンテーション」	◇・◆ 金井満	5
情報科学各論(初級)「HTML入門」	◇・◆ 各担当教員	6
情報科学各論(中級)「表計算応用1」	◆ 松山恵美子	7
情報科学各論(中級)「HTML応用1」	◇ 東孝博	8
情報科学各論(中級)「HTML応用1」	◆ 金子憲一	9
情報科学各論(中級)「HTML応用1」	◆ 田中雅英	10
情報科学各論(中級)「HTML応用2」	◆ 東孝博	11
情報科学各論(中級)「データベース1」	◇ 長崎等	12
情報科学各論(中級)「データベース1」	◇・◆ 松山恵美子	13
情報科学各論(中級)「データベース2」	◆ 長崎等	14
情報科学各論(中級)「プログラミング論1」	◇ 呉浩東	15
情報科学各論(中級)「プログラミング論2」	◆ 呉浩東	15
経済原論a	◇ 阿部正浩	16
経済原論b	◆ 阿部正浩	16
社会心理学a	◇ 玉井寛	17
社会心理学b	◆ 玉井寛	17

03年入学者	総合講座	担当者	(春学期)佐藤 唯行
--------	------	-----	------------

講義目的および講義概要	「世界のマイノリティと民族問題」というテーマのもとに主として外国語学部 に所属する教員が1年間にあたり、輪講形式で、各自の専門を話さしてまいります。90分授業の内、75分を講義、最後の15分を質疑応答にあてばここで、となく一方通行になりがちで通常授業の欠点を解消するつもりです。聞き手である学生諸君からの積極的な質問を歓迎します。	授業計画	1 佐藤唯行, ガイダンス	
	評価方法		前期、後期に筆記試験を実施、形式は午択20問のクイズ形式で、範囲は授業内容に即したものを	2 佐藤唯行, アメリカ政治のエグザ・パワー
			テキスト参考文献	
				4 平田雅博, 英国黒人の歴史と現在
				5 辻康吾, 中国の少数民族政策
				6 佐原徹哉, バルカンの民族問題とマケドニア
				7 佐藤勘治, 米国ラティーノ
				8 = = , ラテンアメリカの先住民
				9 山本英政, ハワイ: 先住民アメリカの先住民の物語、その1
				10 = = = = の2
				11 井藤早織, スコティッシュの選抜—イギリスの先住民スコットランド人—
				12 井上兼行, カリブ海地域の黒人クレオール その1

03年入学者	総合講座	担当者	(秋学期)佐藤 唯行
--------	------	-----	------------

講義目的および講義概要	前期と同じ	授業計画	1 佐藤唯行, 試験問題返却・講評・後期ガイダンス	
	評価方法			2 竹田いさみ, インドネシア・南太平洋の民族紛争
			テキスト参考文献	
				4 = = , = = (2) IT時代のスウェットショップ
				5 金子芳樹, 華僑・華人コネクション—ネットワークが支えた社会—
				6 = = , マイノリティーとしてのイスラム教徒—過激派テロリストを生むメカニズム—
				7 辻康吾, 中国の少数民族問題
				8 古田善文, 統一ドイツの民族問題
				9 = = , EU諸国における極右・ポピュリスト勢力の台頭
				10 高橋雄一郎, セクシマリティーアメリカを中心に—
				11 御園生真, 19世紀前半の4エコの経済発展と民族—4エコ: ドイツ・イギリス—
				12 高橋雄一郎, セクシマリティーの多様性を求めて—アメリカを中心に—

03年入学者	情報科学概論 a	担当者	(春学期) 吳 浩東	
講義目的および講義概要	<p>本講義では、情報科学とコンピュータの勉強をされる学生たちを念頭におき、情報科学とコンピュータリテラシの話からスタートし、コンピュータの歴史と仕組み、情報のデジタル化とコンピュータによるデータの表現や、コンピュータの原理を紹介する。</p> <p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係を概説し、コンピュータのハードウェアとソフトウェア、コンピュータの動作概要などを解説する。次に、情報の符号化、数値や文字などデータのコンピュータ内での表現、データの出入力、プログラム構造、ソフトウェア開発の概要について述べる。本講義は情報処理技術者試験を受験しようとする学生たちに、また、コンピュータに関する知識を中心とした情報科学に深い興味をもつ学生たちに十分に役立つように工夫している。</p>	授業計画	1 本講義の概略 前期講義概要、評価の方法と基準、授業の進め方	
	評価方法		期末のテストと、レポートの提出および出席を加味して評価する。	2 情報とは何か 情報の持つ性質、情報の形態、情報の発達
			テキスト参考文献	(1) 最初の講義で指示する (2) 随時必要な資料を配布する
				4 数の体系と基数変換 2進数と16進数、基数変換
			5 データ表現 情報量の単位と文字コード、数値データの種類	
			6 コンピュータの構成要素 (1) 中央処理装置とメインメモリ	
			7 コンピュータの構成要素 (2) 2次記憶装置と周辺装置	
			8 コンピュータ・ソフトウェアの概略 ソフトウェアの役割、体系と種類	
			9 オペレーティングシステム (OS) OSの基礎概念、OSの構成と機能	
			10 コンピュータ言語 コンピュータ言語の目的と分類	
			11 基本データ構造 木構造、配列構造、リスト構造、スタック構造	
			12 ソフトウェア開発手順 システム分析と設計、プログラム開発と保守	

03年入学者	情報科学概論 b	担当者	(秋学期) 吳 浩東	
講義目的および講義概要	<p>本講義では、近年急速に発展しているインターネット、データ通信、データベース技術に重点をおき、コンピュータ利用技術に関するさまざまな知識を概説する。</p> <p>具体的に、ファイルとデータベースの構造、データベース管理システムの概要、データ通信とコンピュータ・ネットワーク、特にインターネットについて述べる。最後に、情報システムの設計、情報セキュリティについて解説する。最後に、情報技術の最新展開を紹介し、コンピュータを使いながら情報検索や情報処理のテクニックを身に付けることを目標とします。本講義は情報処理技術者試験を受験しようとする学生たちに、また、コンピュータに関する知識を中心とした情報科学に深い興味をもつ学生たちに十分に役立つように工夫している。</p>	授業計画	1 ファイルの構造 ファイルの構造、種類、用途	
	評価方法		期末のテストと、レポートの提出および出席を加味して評価する。	2 データベース データベースの概要、データベースの種類
			テキスト参考文献	(1) 最初の講義で指示する (2) 随時必要な資料を配布する
				4 データベースの設計 データベース構築の手順、データの正規化
			5 コンピュータ通信 情報通信の基礎、データ転送のしくみ	
			6 コンピュータ・ネットワーク ネットワークの種類、LANの構成とアクセス方式	
			7 インターネット インターネットの仕組み、通信規約 TCP/IP、DNS	
			8 インターネットサービス World Wide Web、情報検索、電子メールなど	
			9 インターネットと社会 ネットワークセキュリティ、暗号システムの基礎	
			10 マルチメディアの利用 画像処理、音声処理、バーチャルリアリティ	
			11 情報検索 情報検索の方法と演習	
			12 アプリケーション・ソフトウェア オンラインソフトの使い方と使用	

03年入学者	情報科学各論 (入門)	担当者	(春学期)各担当教員
講義目的および講義概要	<p>現在、膨大な情報の中から「自らに必要なもの」を探し出し、「効率的かつ効果的」に活用する場合の中心となるのはコンピュータである。この科目では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用、およびコンピュータネットワークについて学んでいく。とくに大学生活（広くは社会生活）で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータ活用法を習得することを目的とする。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人で1台のパーソナルコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。内容は、日本語および英文ワープロ、コンピュータネットワーク（通信）、情報倫理についてである。</p> <p>注意 第1回目の授業で受講確認を受けなかった者は、原則としてその後の受講を認めない。その場で使用教材や授業に必要なものを指示する。</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>	授業計画	1 ガイダンスとコンピュータの基本操作
	2 ウィンドウズ入門—ウィンドウ操作とアプリケーション		
	3 日本語入力とタイピング		
	4 インターネット—ブラウザ・メール・検索 (1)		
	5 インターネット—ブラウザ・メール・検索 (2)		
	6 情報倫理		
	7 ワープロ入門—文書の編集 (1)		
	8 ワープロ入門—文書の編集 (2)		
	9 ワープロ入門—文書の編集 (3)		
	10 ワープロ入門—文書の編集 (4)		
	11 ワープロ入門—文書の編集 (5)		
	評価方法		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。

03 年入学者	情報科学各論 (初級)「表計算入門」	担当者	(春学期)・(秋学期)各担当教員
---------	--------------------	-----	------------------

講義目的および講義概要	<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では、表計算 (MS-Excel) の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。</p> <p>注意 第1回目の授業で受講確認を受けなかった者は、原則としてその後の受講を認めない。その場で使用教材や授業に必要なものを指示する。</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>	授業計画	1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習
			2 表の作成(文字の入力)、グラフの作成
			3 表の編集、グラフの装飾、印刷
			4 計算式の利用
			5 ネットワークからのデータの収集・整理
			6 関数の利用 (1)
			7 関数の利用 (2)
			8 関数の利用 (3)
			9 プレゼンテーション (1) —作成 (MS-Powerpoint とは)
			10 プレゼンテーション (2) —作成 (データの活用・まとめ)
			11 プレゼンテーション (3) —発表
			評価方法

03 年入学者	情報科学各論 (初級)「プレゼンテーション」	担当者	(春学期)・(秋学期)金井 満
---------	------------------------	-----	-----------------

講義目的および講義概要	<p>講義の目標： この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。</p> <p>講義概要： この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアである Powerpoint を使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際にプレゼンテーションを行う経験も積んでもらいたいと思います。</p>	授業計画	1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習
			2 Powerpoint の基本操作 1
			3 Powerpoint の基本操作 2
			4 Powerpoint の基本操作 3
			5 Powerpoint の基本操作 4
			6 Powerpoint の基本操作 5
			7 プレゼンテーションの注意点
			8 グループプレゼンテーションの組み分けと個人プレゼンテーションの準備
			9 個人プレゼンテーションの準備
			10 個人プレゼンテーション
評価方法	グループ及び個人プレゼンテーション。		11 個人プレゼンテーション
テキスト 参考 文献	テキスト 授業で指示します。		12 個人プレゼンテーション

03 年入学者	情報科学各論 (初級) 「HTML 入門」	担当者	(春学期)・(秋学期)各担当教員
---------	-----------------------	-----	------------------

講義目的および講義概要	<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つであるWWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。</p> <p>注意 第1回目の授業で受講確認を受けなかった者は、原則としてその後の受講を認めない。その場で使用教材や授業に必要なものを指示する。 実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>	授業計画	1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習
			2 コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成
			3 ファイルの種類とフォルダ構成
			4 WWW と WWW ブラウザ
			5 インターネットと情報倫理
			6 ページの構造と HTML
			7 ホームページの作成ーテキスト
			8 ホームページの作成ーリンク
			9 ホームページの作成ーイメージ
			10 ホームページの作成ーテーブル・その他
			11 ホームページの作成ー完成
			12 ファイルの転送とページの更新
評価方法	授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。		

03年入学者	情報科学各論(中級)「表計算応用1」	担当者	(秋学期)松山 恵美子
講義目的および講義概要	<p>本講義は表計算ソフト(Excel)の基礎をマスターした学生を対象として行う。</p> <p>Excelには様々な機能が用意されている。その中のひとつに「マクロ」機能がある。「マクロ」とは一連の操作を登録しておき、その操作を行いたいときに呼び出すと実行できるという機能である。</p> <p>本講義は簡単な「マクロ」を作成しながら、マクロ機能で作成されたVBA(Visual Basic for Applications)プログラムを理解することを目標とする。</p> <p>ツールバー上のボタンを利用すると処理が行われる。それと同じことがプログラミングでもできるということを「マクロ」機能を通じて学習する。</p>	授業計画	1 ガイダンスと Excel の復習
評価方法	出席とレポート課題		2 マクロとは
テキスト参考文献	第1回目の授業で指示		3 マクロの実行方法
			4 マクロの作成(1)
			5 マクロの作成(2)
			6 フォームの利用
			7 Visual Basic Editor の利用(1)
			8 Visual Basic Editor の利用(2)
			9 Visual Basic Editor の利用(3)
			10 最終課題作成(1)
			11 最終課題作成(2)
			12 最終課題作成(3)

03年入学者	情報科学各論(中級)「HTML応用1」	担当者	(春学期)東 孝博
--------	---------------------	-----	-----------

講義目的および講義概要	<p>Javaは1995年にSun Microsystems社が発表し、インターネット時代のコンピュータ言語とされている。プログラミングの経験のない人間がJavaを理解するのは大変難しいとされているが、ここでは、HTMLから呼び出されて実行されるアプレットによるWebページ上のグラフィックス描写を通して、Java言語の一端を知ることがを目標とする。</p> <p>最初に、簡単なCGIの利用とJavaスクリプトの埋め込みを通して、HTMLによるWebページ作りの復習をする。次に、Javaアプレットの概要を説明する。そして、プログラムを構成する要素である変数、配列、文などと、イメージの表示やグラフィックスの描画の方法を、プログラミングの経験がないことを前提に説明する。</p> <p>注意 情報科学各論(初級)「HTML入門」修了者か、または、それと同等程度の者を対象とする。</p>	授業計画	1 授業内容説明
			2 HTMLの復習(簡単なCGIの利用)
			3 HTMLの復習(Javaスクリプトの埋め込み)
			4 Javaアプレットの概要
			5 プログラム練習(グラフィックスイメージの表示)
			6 プログラム練習(定数と変数)
			7 プログラム練習(for文1)
			8 プログラム練習(for文2)
			9 プログラム練習(if文)
			10 プログラム練習(配列)
評価方法	日常の授業への参加態度と演習により評価をつける。		11 プログラム練習(Mathオブジェクト)
テキスト参考文献	プリントを配布する。 参考文献は適宜紹介する。		12 総合演習

03年入学者	情報科学各論（中級）「HTML 応用1」	担当者	(秋学期)金子 憲一
講義目的および講義概要	<p>講義の目標 この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML 入門」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「HTML を用いたホームページ作成技術を習得した人（FTP の理解を含む）を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コミュニケーション技術を得ることを目標とする。</p> <p>講義の概要 この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及びHTML、FTPなどの復習を行う。次にJavaScriptやCGIプログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。</p>	授業計画	1 ガイダンスとイントロダクション
	2 HTML と FTP の復習 (1)		
3 HTML と FTP の復習 (2)			
4 インタラクティブなページ (HTML と CGI)			
5 JavaScript (1)			
6 JavaScript (2)			
7 JavaScript (3)			
8 JavaScript (4)			
9 CGI の利用 (1)			
10 CGI の利用 (2)			
11 CGI の利用 (3)			
12 総合報告会			
評価方法	授業中に作成する課題と平常点（宿題含む）で総合評価する。出席は特に重視する。最低限のルール（禁飲食等）を守れない場合は、即時失格とする。		
テキスト参考文献	授業中に指示する。 プリントの配布も行う。		

03年入学者	情報科学各論(中級)「HTML 応用1」	担当者	(秋学期)田中 雅英
--------	----------------------	-----	------------

講義目的および講義概要	<p>この授業は情報科学各論(初級)「HTML 入門」に続く中級コースである。HTML 入門を受講済みの学生を対象に、単に HTML 言語の更なる発展を目指すのではなく、cgi や java script にまで範囲を広げる。もちろん単にホームページ作成ということを目指とするのではなく、その過程においてコンピュータやネットワークの理解を深め、その積極的な利用方法の理解にまで話を進める。基本的には、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブな双方向のコミュニケーションを図ることにより、情報処理としての広範囲な知識の整理を図りたい。</p> <p>なおこの授業計画はあくまでの一つの目安であり、途中で更なる発展を目指す変更は当然ありえる。</p>	授業計画	1. ガイダンスと復習
			2. Web ページのネットへのアップロード等
			3. java script 1
			4. java script 2
			5. java script 3
			6. java script 4
			7. cgi 1
			8. cgi 2
			9. 情報の収集 1
			10. 情報の収集 2
評価方法	授業中に指示する課題と平常点で評価する。		11. 応用
テキスト参考文献	授業中に適宜指示する。		12. その他

03 年入学者	情報科学各論 (中級) 「HTML 応用 2」	担当者	(秋学期)東 孝博
---------	-------------------------	-----	-----------

講義目的および講義概要	<p>Javaは1995年にSun Microsystems社が発表し、インターネット時代のコンピュータ言語と言われている。プログラミングの経験のない人間がJavaを理解するのは大変難しいとされているが、ここでは、HTMLから呼び出されて実行されるアプレットによるWebページ上のグラフィックス描写を通して、Java言語の一端を知ること为目标とする。</p> <p>最初に、Javaの基本構造を説明する。続いて、マウスやキーに対するイベント処理、ボタン等のGUI部品の使用、スレッド機能を利用したりアルタイム処理を通してJavaアプレットへの理解を深める。</p> <p>注意 情報科学各論(中級)「HTML応用1」修了者か、または、それと同等程度の者を対象とする。</p>	授業計画	1 Javaの基本構造
			2 イベント処理 (マウスイベント1)
			3 イベント処理 (マウスイベント2)
			4 イベント処理 (キーイベント1)
			5 イベント処理 (キーイベント2)
			6 GUI 部品の使用 (ボタン・チェックボックス)
			7 GUI 部品の使用 (選択ボックス・スクロールバー)
			8 GUI 部品の使用 (GUI 部品のレイアウト)
			9 スレッドの利用 (イメージの移動)
			10 スレッドの利用 (色の変化・時計)
			11 スレッドの利用 (スレッドを利用したゲーム)
			12 総合演習
評価方法	日常の授業への参加態度と演習により評価をつける。		
テキスト参考文献	プリントを配布する。 参考文献は適宜紹介する。		

03年入学者	情報科学各論（中級）「データベース1」	担当者	(春学期)長崎 等
--------	---------------------	-----	-----------

講義目的および講義概要	<p>本講義は表計算ソフトウェア (Excel) の基礎をマスターした学生を対象として、Excel を利用してデータベースの基礎概念及び利用方法について学習する。</p> <p>高度情報化社会といわれる現代においては、昔と違い膨大な量の情報がうずまいている。そういった情報の中からいかに的確な情報を取り出すかというのが大きな課題である。その方法的な答えの1つとしてデータベースがある。</p> <p>データベースの基本的な考え方や利用の仕方について、比較的なじみのある表計算ソフトウェアを利用して実習を行い、学習するのが本講義の目的である。</p> <p><受講者への要望></p> <p>情報科学各論（初級—表計算入門）を既修、またはそれと同等程度の知識があることが望ましい。第1回目の授業には必ず出席すること。遅刻は厳禁とします。また実習を主体とする科目なので休まずに出席すること。</p>	授業計画	1 ガイダンスとコンピュータ利用の復習	
			2 データベースについての調査	
			3 データベースの基本概念	
	4 並べ替え			
	5 集計			
	6 レコードの抽出			
	7 条件検索 1			
	8 条件検索 2			
	9 データベース関数			
	10 クロス集計とピボットテーブル			
評価方法	出席及びレポート課題、さらに実習試験によって評価します。			11 まとめ
テキスト参考文献	1 回目の授業で指示します。			12 実習試験

03年入学者	情報科学各論(中級)「データベース1」	担当者	(春学期)・(秋学期)松山 恵美子
講義目的および講義概要	<p>本講義は表計算ソフト(Excel)の基礎をマスターした学生を対象とし、データベースの扱い方の基礎を学ぶ。数値データだけでなく文字データの処理方法についても学習する。膨大な量のデータの中から必要なデータを的確に抽出する力を習得する。また検索・加工・分析・発表という一連の過程からデータベースの基本的な概念を学習することを目標とする。</p> <p>紙面上のデータをデジタル化してデータベースを構築する方法、またインターネット上から取得したデータをもとにデータベースを構築する方法についても学ぶ。</p> <p>最後に、自ら作成したデータベースを利用して抽出や検索などのデータベース機能を使って分析を行い、その結果をWordでまとめレポートを作成する。</p>	授業計画	1 本講義の概要およびExcelの復習
	2 データベースとは何か		
	3 データの取得と加工		
	4 並べ替え		
	5 集計		
	6 レコードの抽出		
	7 レコードの検索		
	8 クロス集計		
	9 データベース作成(1)		
	10 データベース作成(2)		
	11 レポート作成(1)		
	12 レポート作成(2)		
評価方法	出席およびレポート課題で評価を行う。		
テキスト参考文献	「Windowsによる情報活用」 共立出版		

03 年入学者	情報科学各論 (中級)「データベース 2」	担当者	(秋学期)長崎 等
---------	-----------------------	-----	-----------

講義目的および講義概要	<p>本講義は「データベース 1」を履修済みの学生を対象として、Access を利用してデータベースの概念や設計方法について学習する。</p> <p>Access の基本的な使い方やデータベースの概念を学習した後に、グループごとに与えられた要求をもとにデータベースの設計及び作成をおこなってもらい、グループ単位での演習を通じて、データベースの概念や設計に対する理解を深める。</p> <p><受講者への要望> 情報科学各論 (中級)「データベース 1」を既修、またはそれと同等程度の知識があることが望ましい。第 1 回目の授業には必ず出席すること。遅刻は厳禁とします。またコンピュータの実習を主体とする科目なので休まずに出席すること。</p>	授業計画	1 データベースの概念と機能
			2 Access の基本操作
			3 テーブル
			4 テーブルと結合
			6 クエリー (1)
			6 クエリー (2)
			7 グループによるテーブル設計 1 (ハイレベルエンティティ分析)
			8 グループによるテーブル設計 2 (関係データ分析)
			9 グループによるテーブル設計 3 (テーブル作成)
			10 グループによるクエリ設計 1 (外部スキーマの設計)
評価方法	出席及びレポート課題によって評価します。		11 グループによるクエリ設計 1 (クエリの作成)
テキスト 参考 文献	30H で理解できるアクセス 2000, 実教出版 図解雑学 データベース, ナツメ出版		12 グループによるプレゼンテーション

03年入学者	情報科学各論（中級）「プログラミング論1」	担当者	(春学期) 吳 浩東
--------	-----------------------	-----	------------

講義目的および講義概要	<p>コンピュータで問題を解決するには、プログラムを書かなくてはなりません。本講義では、プログラムをどう作成するか、プログラミング言語はどのような構造を持つか、どのような手順で行うか、データをどのような形にして扱うかについて解説します。プログラミングのノウハウや方法などを理解することを目標とします。</p> <p>初めにコンピュータの構成要素やプログラミング言語とオペレーティングシステムについて概説します。続いて、プログラミング言語の一つである Visual Basic を用いてプログラミングの設計手順や方法、およびプログラミング言語の構造、さらに基本的なプログラムの仕組みなどを学びます。いくつかのプログラムの設計について講義と実習を行います。</p>	授業計画	1 授業のガイダンスとコンピュータ構成の概説	
	評価方法		前期の定期試験と、2～3回程度のレポートの提出および出席を加味して評価する。	2 プログラミング言語とオペレーティングシステム
			テキスト参考文献	(1) 最初の講義で指示する。 (2) 必要な資料をファイルで配布する。
			4 Visual Basic の基本操作 コントロール配置、プロパティ設定、コーディング	
			5 簡単なプログラムの作成 データ型、演算子、プロパティの値の取得と演算	
			6 選択構造をもつプログラムの作成 (1) 条件選択構造、プログラムの設計とコーディング	
			7 選択構造を持つプログラムの作成 (2) 多重選択、複数の選択のあるプログラムの設計	
			8 繰り返しあるプログラムの作成 ループ構造とその応用	
			9 配列とコントロール配列 一次元配列、二次元配列、コントロール配列	
			10 ファイル操作 (1) シーケンシャルアクセス：データの読み書き	
			11 ファイル操作 (2) ランダムファイルとランダムアクセス	
			12 総合練習 アプリケーションを試作する	

03年入学者	情報科学各論（中級）「プログラミング論2」	担当者	(秋学期) 吳 浩東
--------	-----------------------	-----	------------

講義目的および講義概要	<p>プログラミング技術を上達させるために、系統的に異なる様々な視点でのアルゴリズム (algorithms) 学習が効果的です。そのために、本講義はコンピュータのプログラミングで使われるデータ構造とアルゴリズムにいて重点的に概説します。本講義では受講者に基本的なデータ構造とアルゴリズムをわかりやすく説明し、プログラミング能力をさらに上達することに目指します。初めに、プログラミングの設計に重要であるデータ構造とアルゴリズムの概念を概説します。さらに、データ構造を細かく分析する上、さまざまな例を用いてデータ構造の定義から使い方までを説明し、演習を行います。また、データ構造をアルゴリズムに応用し、プログラミングに特によく使うアルゴリズムを講義と演習しながら学びます。</p>	授業計画	1 なぜデータ構造とアルゴリズムが重要なのか？ データの記録と表現、プログラミングのツール	
	評価方法		定期試験と、2～3回程度のレポートの提出および出席を加味して評価する。	2 アルゴリズムの基礎 アルゴリズムの基本的な考え方
			テキスト参考文献	(1) 最初の講義で指示する (2) 随時必要な資料を配布する
			4 探索 二分探索、併合、逐次探索と番兵	
			5 ソート 選択ソート、挿入ソート	
			6 文字列処理 文字列の照合、文字列の置き換え	
			7 再帰というプログラミング手法 再帰とは、再帰の簡単な例	
			8 木構造 木と二分探索木、二分探索木のさまざまな表現	
			9 知的データベースの設計	
			10 さまざまなグラフィックスの処理	
			11 アプリケーションの開発 (1) 実習 (1)：課題の説明と作成	
			12 アプリケーションの開発 (2) 実習 (2)：課題設計のスキルと方法の解説	

03 年入学者	経済原論 a	担当者	(春学期)阿部 正浩
---------	--------	-----	------------

講義目的および講義概要	講義の目標 「経済学の考え方とは何かから始め、経済学をツールとして「現代社会の問題をどのように分析すればよいのか」まで理解できるようにする。 講義概要 テキストの内容に沿って講義を行なう。なお、ほとんど毎回課題を出すので、それを自習すること。二回に一回の割合で課題の提出をしてもらう。詳細については一回目の講義で説明する。	授業計画	1 この授業のすすめ方	
			2 経済学の考え方	
			3 取引と貿易	
			4 需要と供給と価格	
	5 予備日			
	6 需要・供給分析の応用 (その1)			
	7 需要・供給分析の応用 (その2)			
	8 時間とリスク(その1)			
	9 時間とリスク (その2)			
	10 公共部門 (その1)			
評価方法	レポートと期末テスト			11 公共部門 (その2)
テキスト参考文献	「入門経済学」ジョセフ・E・スティグリッツ (東洋経済新報社)			12 予備日

03 年入学者	経済原論 b	担当者	(秋学期)阿部 正浩
---------	--------	-----	------------

講義目的および講義概要	講義の目標 「経済学の考え方とは何かから始め、経済学をツールとして「現代社会の問題をどのように分析すればよいのか」まで理解できるようにする。 講義概要 テキストの内容に沿って講義を行なう。なお、ほとんど毎回課題を出すので、それを自習すること。二回に一回の割合で課題の提出をしてもらう。詳細については一回目の講義で説明する。	授業計画	1 GNP とは (その1)	
			2 GNP とは (その2)	
			3 マクロ経済学と完全雇用 (その1)	
			4 マクロ経済学と完全雇用 (その2)	
	5 経済成長(その1)			
	6 経済成長 (その2)			
	7 失業と総需要 (その1)			
	8 失業と総需要			
	9 インフレーション (その1)			
	10 インフレーション (その2)			
評価方法	レポートと期末テスト			11 まとめ
テキスト参考文献	「入門経済学」ジョセフ・E・スティグリッツ (東洋経済新報社)			12 予備日

03年入学者	社会心理学 a	担当者	(春学期)玉井 寛	
講義目的および講義概要	<p>本講義では個人と集団ならびに社会とのかかわりの観点から相互作用について考える。個人の行動をもたらす知覚、感情、思考といった個人心理学も視野に入れながら他者との影響や環境との相互作用から個人の態度や行動が変化する様子を考えてゆく。社会的な環境にある個人はその文化に規定されるが、そうした個人と社会、個人と集団、文化と態度、社会と集団などの相互関係や影響の過程などのテーマについても考察する。考察テーマは身近なものを取り上げたい。</p> <p>履修条件：秋学期と連動した内容で講義を進めます。従って、本学期では社会心理学の領域をすべて網羅していませんので、秋学期も合わせて受講することを条件とします。</p>	授業計画	1 社会心理学への導入 前期授業の案内	
	評価方法		試験結果、レポートと出席回数を加味します	2 社会的行動の基礎 行動の動機
			テキスト参考文献	授業の中で随時紹介します
				4 社会のなかの個人 人の理解-2
			5 他者との影響 さまざまな見方-1	
			6 他者との影響 さまざまな見方-2	
			7 相互作用 協力と対立-1	
			8 相互作用 協力と対立-2	
			9 態度変容 説得とメディア-1	
			10 態度変容 説得とメディア-2	
			11 コミュニケーション	
			12 集団とメンバー	

03年入学者	社会心理学 b	担当者	(秋学期)玉井 寛	
講義目的および講義概要	<p>本講義では個人と集団ならびに社会とのかかわりの観点から相互作用について考える。個人の行動をもたらす知覚、感情、思考といった個人心理学も視野に入れながら他者との影響や環境との相互作用から個人の態度や行動が変化する様子を考えてゆく。</p> <p>社会生活上における具体的な事象を組織、集団や群衆行動や、社会病理といった観点からとりあげ、さらに文化と適応を国際化社会に生きる現代の様相を考える。最後に近代化した社会での孤独と不安について考察しい。</p> <p>履修条件：春学期と連動した内容で講義を進めます。従って、本学期では社会心理学の領域をすべて網羅していませんので、春学期も合わせて受講することを条件とします。</p>	授業計画	1 社会生活 世論とマスコミ-1	
	評価方法		試験結果、レポートと出席回数を加味します	2 社会生活 世論とマスコミ-2
			スト参考文献	授業の中で随時紹介します
				4 組織、集団 組織と心理-2
			5 群衆行動-1 流言と群衆	
			6 群衆行動-2 群衆制御	
			7 社会病理-1 ストレス	
			8 社会病理-2 社会不安	
			9 文化と適応-1 異文化適応	
			10 文化と適応-2 ボーダーレス社会	
			11 現代人の心理 孤独と不安	
			12 社会、文化、個人 社会心理学まとめ	